如学会NEWS

jogakkai

2019春

東京都市大学
建築学科同窓会誌

海と砂漠の近未来都市デザインとルーブル・アブダビ見学
「ドバイ・アブダビ都市建築ツアー」レポート
「やま仙・日本料理店」を設計・ウガンダに建築
甦る広瀬鎌二のディテール「広瀬鎌二建築展SH＋」報告

如学会主催　建築学生のための
「進路支援プログラム」
OB・OGによる進路ガイダンス
「建築一〇〇人展二〇一八
大学展・浅草展」開催

追悼　中園正樹氏
「如学会の由来」
「女流ファイル」PART・19
卒業設計・卒業論文
修士設計・修士論文
蔵田賞・如学会賞

メイダン競馬場（ドバイ・撮影：山岡嘉彌）

■如学会NEWSの春号は、毎年3月19日の学位授与式に刊行、配布されています。今年の卒業生もこれからは、学生如学会からOB･OGの如学会の仲間入りをします。昨今、私共の如学会は、豊富なOB･OGの人材で最も活発に活動している大学建築学科の同窓会組織として、他大学からもメディアからも注目を浴びる存在となりました。複数の他大学の同窓会に呼ばれて、熱心に質問を受けたり、このほどは建築士会の機関誌掲載のためのインタビュー取材も受けました。如学会はボランティア組織ですが、単に消耗なルーティンワークに陥らないように、常にクリエイティブに発想して行動に移し、試行錯誤を恐れずに進化していくように努力しています。企業での様々な実績を積んだ仲間同士で老若男女の幅広い層が上下の関係はなく、同じ目線で自由に発想して発言し、活動する極めてユニークな組織です。しかも「身の丈の活動」を是とし、仕事が多忙や転勤などになれば活動休止も可能です。新しく卒業する皆さんも是非、多くの如学会のイベントに加わり、幅広い人脈に触れ、人間関係を広げて、将来につなげていってほしいと思います。会社の中とは異なる人脈が、仕事の獲得や実力や人間力の向上に役立つことが実感できる組織です。私共の活動をご理解いただき、皆さんの積極的なご参加はもとより、ご支援、ご協力を心よりお願い申し上げます。如学会は、活動が活発になればなるほど人材が不足してきており、経験豊かな年輩の方々から新卒の若い世代まで、常任理事、委員を募集しております。
是非共、皆様のご応募をお待ちしております。

山岡嘉彌
(S46 卒)

如学会会長

如学会の活動報告

2018 年度実施した主な活動

定期総会講演会 (6.2)

コクヨオフィス見学会 (10.3)

ドバイ･アブダビ建築ツアー (10.18-22)

如学会・進路ガイダンス (11.21)

夏期特別講座（8.5-8.9）

100 人展クルージングパーティ（12.1）

100 人展・大学展（11.3-11.4）

100 人展・浅草展（12.1-12.9）

如学会 NEWS 年 2 回発刊 (春･秋)

被災地ﾎﾞﾗﾝﾃｨｱﾌﾟﾛｼﾞｪｸﾄ

勝又英明
(S55 卒)

東京都市大学
建築学科主任教授

建築学科の近況

■建築学科人事
2019年4月からの建築学科人事を紹介します。
主任教授、専攻主任教授、専攻主任補佐、就職担当が変更になりました。
〇主　任　教　授：小見康夫教授
〇専攻主任教授：長岡裕教授（都市工学科）
〇専攻主任補佐：岩下剛教授（建築学科）
〇就　職　担　当：小林茂雄教授
〇採　　用：田上淳先生　教育講師
（構造系の授業を担当して頂きます。）

・新居千秋先生ご退職
長く設計の授業のご指導を勤めていただいた新居千秋先生が、今年度一杯ご定年で退職です。新居先生は、本学建築学科の教授としてもご指導いただきました。また就職においても多くの学生がお世話になりました。長い間ありがとうございました。今後とも建築学科をよろしくご指導をお願いいたします。

・宿谷昌則先生ご退職
建築学科ではありませんが、宿谷昌則先生（現環境学部環境創生学科教授）が今年度、定年でご退職です。宿谷先生は1985～1998年に建築学科の助教授、教授として学生の指導にあたっていただき、1998年に本学横浜キャンパスの環境情報学部教授として転籍されました。横浜キャンパスの転籍後も建築学科の卒業研究の学生の面倒を見て頂いていました。大変お世話になりました。

■世田谷キャンパス再開発進行中、笹原建築の動向
世田谷キャンパスでは再開発が進行中です。最近世田谷キャンパスに、建築物の名称「(仮称)東京都市大学A・B棟増築工事」という「建築構想のお知らせ」看板が設置されました。A地区には延べ面積11.732㎡、B地区には延べ面積17,035㎡の校舎が増築されます。2019年3月現在、A地区の旧6、7、B地区の8号館の跡地が更地となっています。
世田谷キャンパスには本学建築学科の笹原貞彦先生が設計された校舎が多く残っています。しかし本館と呼ばれていた1号館、旧体育館の14号館、旧図書館の5号館はすでに建て替わり、残るのはA地区の15(情報処理センター),16号館、B地区の10,11,13号館となりました。これらの笹原建築も再開発に合わせて解体される予定です。特にA地区の旧6号館と旧8号館に挟まれた15,16号館は(演習室や研究室の引越しが行われており)早々に解体される予定です。テニスコートに面し、時計台の廻り階段のある横に長い (ある意味世田谷キャンパスのシンボルでもある) 10号館も(時期は分かりませんが)解体される予定です。世田谷キャンパスの笹原建築がそろそろ見納めです。是非卒業生の皆さんも散策にいらしてください。お待ちしています。

4 号館屋上から旧 6 号館跡地、14,15 号館、図書館を見る

topics

「広瀬鎌二建築展 SH ＋」第 1 回を終えて

建築会館ギャラリー
2018.11.22-26

原寸大の「SH-1」の再現 *1

建築設計図の原図を展示 *2

昨年 2018 年 11 月 22 日より 26 日まで、田町の建築会館ギャラリーにて「広瀬鎌二建築展 SH ＋（SH プラス）」の第 1 回を開催しました。同建築展は「2022 年生誕 100 年に向けて」という副題のとおり、師広瀬鎌二の生誕 100 年を迎える 2022 年まで、5 回にわたって毎年開催される予定の第 1 回目と位置づけられています。
第 1 回展は、広瀬の鉄骨住宅作品では SH-1（1953 年竣工）から SH-13（1957 年竣工）までの時代を取り上げています。広瀬自身、もしくは広瀬鎌二建築技術研究所スタッフの手による建築設計図の原図（トレーシングペーパーに鉛筆書き）、平山忠治氏ほか撮影による建築写真、東京都市大学小見康夫研究室の協力による BIM の映像、SH-1 の原寸鉄骨フレームモデルなどが展示されました。
なかでも、SH-1 の原寸フレーム模型は、40mm のアングルを溶接してボックス型の柱にする当時の工法を再現したもので、注目されました。会場の都合で約半分、2 スパン分の架構展示となりましたが、スリムな 40mm 角の柱とターンバックルを用いないブレースは、端正で簡潔な構造デザインであることが改めて確認できました。

750 名の来場者と多彩なスピーチの光る記念パーティ

第 1 回展はわずか 5 日間の開催でありましたが、延べ 750 名の来場者があり、足を運んでくれた方々にこの場を借りて感謝したいと思います。第 1 回展のカタログ（設計図集、アーカイブ協力費 2,000 円につき 1 冊贈呈）も好評で、会場で受付せずメール申込の上、後日送付する手続きの煩雑さにもかかわらず、多数の申込みがありました。
また、11 月 23 日の夕刻には、同じ会場で開催記念パーティが実施されました。狭い会場にもかかわらず、110 名以上の参加者でにぎわいました。勝又英明氏（東京都市大学教授）の司会進行のもと、広瀬ゆかりの方々の貴重な逸話を聞く機会ともなりました。広瀬建築への思いを寄稿してくれた岸和郎氏（京都大学名誉教授）、広瀬とは縁の深い建築家池辺陽氏（故人）の住宅作品を継続して調査・研究していることでも知られる難波和彦氏（東京大学名誉教授）のほか、アーカイブズ研究会の代表矢野和之氏（文化財保存計画協会）が登壇してくれました。同じく SH 図面等のデジタル化に取り組んだ山﨑鯛介氏（東京工業大学准教授）、原寸模型の設計をマテリエと共に担当し、図面だけでは判明しなかった部分を補う試みで苦労した尾形光男氏（日本設計）、原寸模型の製作もしていただいた大住豊氏（マテリエ）のスピーチなどで、会場は盛り上がりました。

甦る広瀬鎌二のディテール

レポート●**松成和夫**（S50 卒）
プロコード・コンサルティング

「2022 年生誕 100 年に向けて」／「広瀬鎌二アーカイブズ研究会」主催

難波和彦氏挨拶 *2

岸和郎氏挨拶 *2

中庭まで広げてのオープニングパーティ *2

撮影　*1：日暮雄一、*2：桐原武志

「広瀬鎌二アーカイブズ」の活動

一連の広瀬鎌二建築展は、「広瀬鎌二アーカイブズ研究会」の主催です。同研究会は、2007 年に準備会が発足しました。広瀬鎌二の建築的な資料（設計図、写真、その他）を適切に遺すことを目的に、広瀬研究室の卒業生だけでなく、先述した山﨑鯛介氏、広瀬の最晩年に付き添うようにサポートしてくれた白鳥健二氏、国立近現代建築資料館の桐原武志氏、教授退職後、設計事務所「広瀬研究室」を切り盛りしてくれた山本成一郎氏など、幅広い分野の賛同者が参加してくれています。2009 年ころから広瀬自邸、山本成一郎氏の事務所からの資料の集約化、図面のデジタル化など、活動が本格化しています。
ちなみに、師広瀬が逝くのは 2012 年 2 月のことですが、その 5 年ほど前から、まだ元気だった本人と確認しながら資料の集約化を進めることができました。2012 年 7 月の「広瀬鎌二先生を偲ぶ会」の際にも、パネル展示などでこれらの資料が活用されています。

現在、Facebook ページ（Facebook 未登録者も閲覧可能）のみであるが、展覧会やその他活動について情報発信をしており、アーカイブ協力費や次回の協賛などについても案内しています。こちらもご覧いただきたいと思います。（https://www.facebook.com/Hirose.Kenji.Archive/）（下記 QR コード）

こうしたアーカイブズ研究会の活動の一環として、第 1 回の「広瀬鎌二建築展 SH+」が開催できました。後援をいただいた如学会、協賛をいただいた企業、広瀬研究室の卒業生、広瀬ゆかりの方々の、幅広いご支援とご協力のおかげです。先にも述べたように、2022 年まで計 5 回開催される予定となっています。第 2 回展は、引き続き建築会館ギャラリーにて、本年 11 月 16 日から 21 日まで開催されます。主な展示は、SH-30 が中心となる予定で、16 日には建築会館ホールにて 、山本理顕氏（予定）などのゲストをお迎えするシンポジウムも企画しています。ご来場を心よりお待ちしております。

特集●「OB･OG による進路ガイダンス／進路支援プログラム ･2018」開催される。

この度「2018 年度如学会活動の主テーマ」として別紙のとおり 6 年目となる「進路支援プログラム／ OB・OG による進路ガイダンス」を実施致しました。この企画は本学建築学科の卒業を控えた学生に対し、

- ●「一人では不安な就職問題や進学問題について大学・OB・OG が親身になって相談に乗ってくれる場の提供」
- ●「OB・OG を通じて建築の実業社会を知る絶好の機会」
- ●「本音で語り合えるコミュニケーションの場の提供」

を目指したものです。

如学会として当企画に込めました意義は、「学生個々人と大学・OB・OG との繋がりを大切にしてきた " 本学の精神 " を就職・進学という大学生活～社会生活を横断的につなぐテーマに生かし、具体的に表現する場を提供する」ことにあります。

当企画は 3 部構成で実施致しました。
「第 1 部：業種別仕事紹介」では " 業種別に一つの企業を選び、その企業の本校 OB・OG の方に各業種の概要をパワーポイントを用いて約 7 分でご紹介いただく場 " とし、14 の業種別企業紹介を行って頂きました。

「第 2 部：企業別仕事紹介」では " 建築関連の幅広い業種 79 社の企業の方々 " に参加いただきました。このコーナーは「本校 OB・OG の方と学生とのコミュニケーション」を通じて「建築関連業界の生の情報を伝える場として、学生の不安を少しでも払拭する交流の場」創りを目指したものです。この企業別仕事紹介に期待する役割とは「先輩に聞こう！先輩と語ろう！」というサブタイトルにありますように、あくまでも学生の質問に答える形で「就職・実社会での活動等に関する企業とそこに於ける業務についてコミュニケーションすること」にありました。「リクルート活動」とは一線を画し、OB・OG の方々にはあくまで個人として参加頂きました。参加頂きました企業の OB・OG の方々には学生たちの不安・関心・期待等に熱心に応えて頂き、とても盛況な場とすることができました。

「第 3 部：懇親会」では企業 OB･OG の方々と学生とが、親しく歓談し、学生の関心・疑問・不安等を直接先輩にぶつけることができ、学生にとって他に得がたい「交流のチャンス」を創り出すことができました。

昨年に引き続き開催した今回の「進路支援プログラム」を通じて多くの企業から高い評価を頂き、今回未参加であった企業の OB・OG の方々からも次回への参加のご要望の声が寄せられております。また学生の側からも、この「プログラム」で得た情報・人脈を会社訪問等に生かし、就活に取り組む良いきっかけとなったとの高い評価を得ております。

今回も昨年の反省を生かして、事前に参加企業紹介のデータを作成し学生に配信する等、改善・工夫をして開催致しましたが、参加頂きました「企業 OB･OG」「学生」からはいくつかの課題等も寄せられております。こうした課題・要望を更に次に生かし、より充実した「進路ガイダンス」とすべく活動して行きたいと考えております。

今回の参加者総数　351 名
内訳は
- 参加企業……79 社
  （企業 OB・OG その他参加者　231 名）
- 参加学生……91 名
- 大学・如学会関係者……19 名

進路ガイダンス委員会委員長　斉藤 博

主催：東京都市大学建築学科同窓会・如学会

2018 年度
如学会

「進路支援プログラム」
OB･OG による進路ガイダンス

――― 実施報告 ―――
第 1 部　業種別仕事紹介
第 2 部　企業別仕事紹介
第 3 部　懇親会

2018 年 11 月 21 日 [水]
13：00-19：00

「先輩に聞こう！
先輩と語ろう！」

気軽に自分の進路を OB・OG と相談できる場を提供することができました。

大企業やアトリエ事務所、規模にかかわらず建築界とその関係領域の幅広い分野の先輩達が後輩のために集まりました。

第 1 部：業種別仕事紹介

第 2 部：企業別仕事紹介

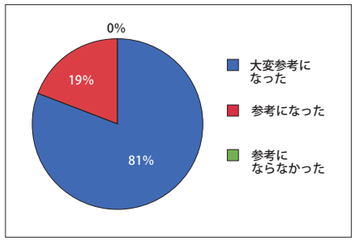
第 3 部：懇親会

写真撮影：小林捨象

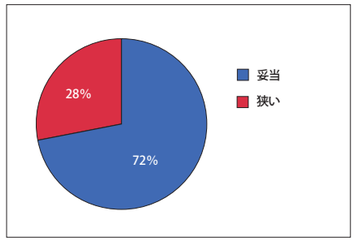
第 6 回「進路支援プログラム」への御参加ありがとうございました

■参加学生アンケート

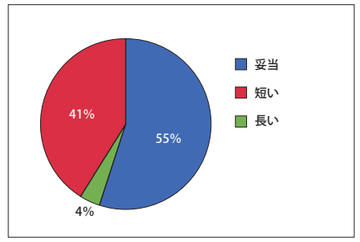
進路支援プログラム / 進路ガイダンス



会場



開催時間

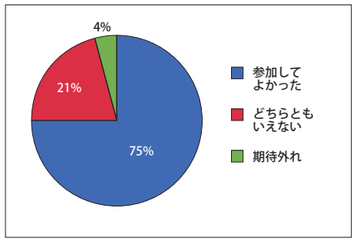


■「進路ガイダンス」参加学生アンケート結果の評価・総括

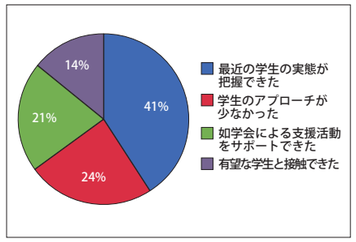
「進路ガイダンス」実施後のアンケートでは「参加学生の 100%の方から大変参考になった又は参考になった」との回答が寄せられました。79 社と業界を代表する多くの企業の OB・OG に参加頂き、こうした多方面で OB・OG が活躍されていることを初めて知ったという学生も多く、この「ガイダンス」での出会いを「会社訪問」等、今後積極的に活動する良いチャンス・契機となったとの報告も寄せられております。

■参加企業アンケート

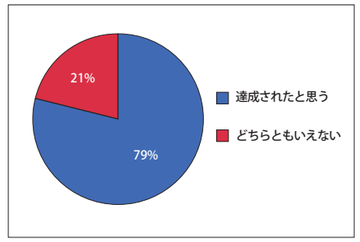
今回のガイダンス



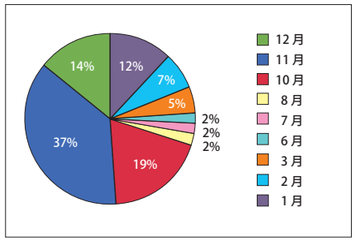
参加して良かった（複数回答）



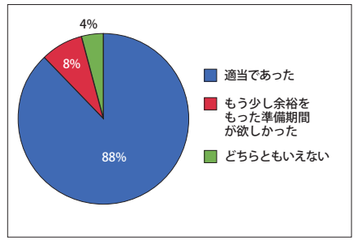
ガイダンスを通じて「大学」と「OB 企業」と「学生」とを繋ぐという開催意図は達成されたと思いますか



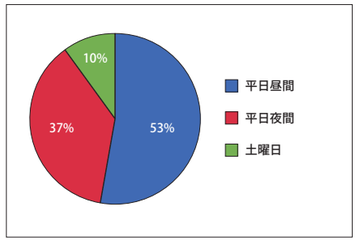
開催希望時期は
（妥当しない月は削除）



今回のガイダンスへの参加依頼・決定の準備期間は適当でしたか



参加しやすい時間帯は
（該当しない時間帯は削除）



■「進路ガイダンス」参加学生アンケート結果の評価・総括

「進路ガイダンス」実施後のアンケートでは参加企業の 79%の方からガイダンスを通じて「大学」「OB・企業」と「学生」をつなぐという開催意図は達成されたと思うとのご回答が寄せられました。また、会場・進行等についても貴重なご意見を頂きました。

昨年より参加希望企業が増加し大変嬉しいことではありましたが、会場のテーブル数の限界のもとに行い、皆様には大変混雑したガイダンスとなってしまいました。次回に向けまして「改善・工夫」を図っていきたいと考えております。

report

OB･OGの特別講師の皆様、ご協力ありがとうございました

□実施日時：　2018 年 11 月 21 日 [水]13:00-19:00
□場所：　東京都市大学世田谷キャンパス
□開催の主旨：この企画は「就活を控えた学生と企業代表の OB・OG が本音で語り合うコミュニケーションの場」「学生個々人と大学・OB・OG との繋がりを大切にしてきた本学の精神の表現の場」を創り出すための試みとして昨年に引き続き開催したものであり、" 如学会の役割・存在 " を意義あるものとするためのチャレンジでもありました。

□実施プログラム

第 1 部

業種別仕事紹介　13:00-15:45　会場：新 6 号館「61B 教室」
学科教室の先生から就職の流れ、大学院への進学手順の説明の後、以下の業種について OB、OG の 14 人の講師の方々から概略をお話しいただきました。

	[業種名]	[企業名]	[担当者 (卒業年)]
1	官公庁等	川崎市役所	斎藤史人　（H25）
2	アトリエ系設計事務所	栗田祥弘都市建築研究所	栗田祥弘　（H10）
3	エンジニアリング系設計事務所	造研設計	三好敏晴　（H10）
4	組織設計事務所	石本建築事務所	富宇加潤　（H14）
5	総合建設会社（設計）	戸田建設	戸田千春　（H26）
6	総合建設会社（施工）	清水建設	星　千紘　（H25）
7	環境・設備関連	太平エンジニアリング	関口晋太郎　（H19）
8	住環境関連	大東建託	伊藤達彦　（H25）
9	インテリア・ディスプレイ	丹青社	藤麻貴博　（H22）
10	技術・材料関連	不二サッシ	西本直史　（H03）
11	鉄道・不動産・ディベロッパー関連	JR 東日本都市開発	皆川寛章　（H24）
12	エネルギー	東京ガス	鎌田寛人　（S62）
13	マスメディア・情報関連	NTT データ	高橋　翼　（H22）
14	海外留学・海外就職	スイス留学	根市　拓　（H26）

第 2 部

企業別仕事紹介　16:00-17:30　会場：4 号館建築学科棟 1 階「グランドギャラリー」
参加企業別にテーブルを準備、関心のある企業の OB･OG の方々から直接生の情報を得られる貴重な場を提供することが出来ました。

（五十音順）

官公庁等	川崎市、台東区、UR 都市機構、横浜市
アトリエ系設計事務所	三上建築事務所
エンジニアリング系設計事務所	建築構造研究所、造研設計、ピーディシステム
組織設計事務所	アーキプラン一級建築士事務所、石本建築事務所、NTT ファシリティーズ、久米設計、東急設計コンサルタント、東畑建築事務所、日建設計、日本設計、松田平田設計、三菱地所設計、安井建築設計事務所、山下設計
総合建設会社	安藤ハザマ、大林組、大本組、奥村組、鹿島建設、川口土木建築工業、五洋建設、佐藤工業、清水建設、西武建設、錢高組、大成建設、大成ユーレック、大和ハウス工業、髙松建設、竹中工務店、鉄建建設、東急建設、戸田建設、飛島建設、巴コーポレーション、西松建設、長谷工コーポレーション、フジタ、前田建設工業、若築建設
環境・設備関連	新菱冷熱工業、須賀工業、大気社、太平エンジニアリング、東洋熱工業、西原衛生工業所
住環境関連	積水ハウス、大東建託、東急 Re･ デザイン、ナイス、長谷川萬治商店、三井ホーム
インテリア・ディスプレイ	丹青社、ディー・サイン、三越伊勢丹プロパティデザイン
技術・材料関連	旭ビルウォール、三晃金属工業、不二サッシ、ノザワ
鉄道･不動産･ディベロッパー関連	伊藤忠アーバンコミュニティ、ジェイアール東日本都市開発、鈴与三和建物、スターツ CAM、住友不動産、東急電鉄、森ビル
エネルギー	東京ガス、東京電力フュエル＆パワー
マスメディア・情報関連	NTT データ、建築資料研究社／日建教育奉仕会、総合資格、トランス・コスモス
海外留学・海外就職	杉本拓海、十河彰、根市拓

第 3 部

懇親会　17：30-19：00　会場：14 号館（学食棟）カフェテリア「CAFE SORA」
立食形式の懇親会で、第 2 部で交流できなかった OB・OG とも更にフランクな形で質疑応答・コミュニケーションの機会を創りだすことが出来ました。

特別協賛：建築資料研究社　協賛：佐藤工業、三晃金属工業、JR 東日本都市開発、須賀工業、スターツ CAM、大成ユーレック、鉄建建設、ノザワ、フジタ／ 100 人展企業出展／（敬称略･順不同）

新規企画　2019 年「進路ガイダンス」

「進路ガイダンス」が6月+10月開催に変わります

これに先立ち6月に「業種紹介･プレ進路ガイダンス」を開催します

第 1 回「プレ進路ガイダンス」（業種別）：6 月 19 日［水］午後 ―― 第 1 部：業種別仕事紹介
第 2 部：懇親会

第 2 回「進路ガイダンス」（企業別）　：10 月 23 日［水］午後 ―― 第 3 部：企業別仕事紹介
第 4 部：懇親会

■「新規企画」の主旨

近年の「経団連」による「就活開始時期の緩和」の動きを始めとして「インターンシップ・6 月スタート」「企業研究・6 月スタート」と「就活の準備時期が前倒し」になりつつあります。また「東京都市大学建築学科の学部 3 年の研究室配属確定が 8 月」となっており「10 月 (本年) の進路ガイダンス」に先立ち「建築の多様な業種･企業」について早期（6 月）の第 1 回進路ガイダンスの実施が学生たちの進路検討に真に役立つものと言えます。

また、毎年の進路ガイダンス「企業別仕事紹介」の各企業テーブルでの学生たちの「進路に対する自分の意識」が未だ定まらず、これから何をやりたいのか、どの様な業種に自らの進路を見出して行きたいのかが不明のままで臨むものが多いとの OB・OG からの感想が寄せられており、これに応える方策として立案致しました。

■ 6 月「業種紹介・プレ進路ガイダンス」実施の概要

1：これから「研究室」を決めるに先立って「OB・OG による業種別魅力紹介」のプレゼンテーションを 6 月に「プレ･ガイダンス」として実施する。
―― 6 月 19 日（水曜）午後を予定 / 大学の他催事確認中

2：業種 13 分野を代表した「企業代表というより業種代表」としてのプレゼンテーションを期待する。
―― 計 20 講師（現在の 14 人から変更）
――「総合建設業」は大手（設計、施工の 2 講師）、中堅（特色･魅力紹介の 1 講師）別、総合設計事務所は 2 社で行う等。
――「アトリエ設計事務所」は " 採用 " と関係なく、「アトリエ事務所」の魅力を語ってもらう。/ 企業別仕事紹介のエントリー企業以外も可とする。

3：業種別 1 講師 8 分（入れ替え時間込み 10 分）で「パワーポイント」にて所属する「業種・業界」の紹介と「自分が会社に就職してからこれまでに得た " 人生を通してのキャリア "」等について学生に語ってもらう。
※当日は 20 講師参加、他の非参加企業は来校の必要はございませんが､10 月の「進路ガイダンス」に向けてご参加は自由です。

4：会場を「グランドギャラリー」（製図室）とし、今までの「講堂」での一方的な講演とは異なるコミュニケーションを期待する。自由に語り合える懇親会も実施する。

5：当日「グランドギャラリー」（製図室）に「10 月参加予定企業の紹介パネル（A1 サイズ）紹介画面の下部に連絡窓口の氏名・連絡先を記載」を掲示し、「進路ガイダンス」の前後に学生が見て廻れるよう工夫する。
―― 事前に 2018 年参加各社に連絡し「データ」で提出。如学会にて印刷し、会場壁面に掲示する。
※「大本組パネル / モデル案」を企画書に添付する。

■ 6 月の「第 1 回進路ガイダンス」開催のメリット

―― 例年の第一部を 6 月にプレ・ガイダンスとして開催することで、１０月進路ガイダンスの第 1 部「業界別仕事紹介」はなくなり、「企業別仕事紹介」に特化でき、学生との面談時間を長くできる。

■「進路ガイダンス」への「学生動員」の工夫

―― 初めての企画で、学生にとってまだ進路を決めかねている時期なので多くの学生に参加してもらうためには、「プレ・ガイダンス」の主旨を良く理解してもらうことが重要。

1：「都市大学教育センター」への事前「主旨説明」と「会場使用の了承」。
2：「建築学科教室会議」を通じた「学生動員」への協力要請が絶対条件。
3：建築学科メールにて学生への事前告知を徹底する。
グランドギャラリーに大型掲示で事前告知する。

■「進路ガイダンス準備会」開催時期

―― 準備会は「職域理事」中心の１０月参加企業数増進へのプログラムであり、「プレ・ガイダンス」の６月実施に合わせて４月開催等前倒しする必要はないと考え、従来通り「８月進路ガイダンス準備会」としたいと考えます。それによって、６月のプレガイダンスの結果を 10 月の進路ガイダンスに反映することも可能と考えられます。

「進路ガイダンス」に関するお問い合わせ：
進路ガイダンス委員会委員長　斉藤博（S44 卒）
toshibunka@t-lx.co.jp
03-5411-3448

如学会研修交流ツアー（共催・校友会、柏三水会）

海と砂漠の近未来都市デザインを訪ねて

砂漠の摩天楼・オーシャンリゾート・海に浮かぶルーブル美術館・建設中の仰天建築の旅

「ドバイ・アブダビ都市建築ツアー」3泊5日

文● 西山広朗（H07卒）

日本がやっと涼しくなって来た2018年10月18日〜22日、灼熱の地、ドバイ・アブダビ都市建築、3泊5日の弾丸ツアーが行われた。今回のツアーは如学会主催のもと、校友会、柏三水会との共催として開催され、ドバイに長期駐在し、（ツアー当時）出張中の竹中工務店、澤田伸一氏（如学会・国際委員長）同行のもと、総勢27名の参加でツアーは出発した。ドバイの繁忙期が途切れる一瞬を狙った25万円という格安ツアー。それも、エミレーツ航空＋羽田往復直行便＋全行程添乗員同行＋貸切バス＋全食事付きである。参加したツアーでは毎回、如学会ニュース記事執筆を命じられているが、毎度の珍道中、ネタに事欠かないとはいえ、出発前から多少のアクシデントを期待してしまう、不謹慎な態度で旅行に臨んでいた。もしネタが無ければ、山岡会長をドバイクリークに突き落としてもいいとさえ思っていた??自分を、お許しいただきたい。（実際そうならずに済みました）

フライトが羽田発深夜便ということもあり、夜の10時に集合ではあったが、来た人からチェックインに向かったため、集合からもうバラバラ。並んではいるもの、誰が来てるの来てないのと、右往左往しながら、人数を確認していく。この方式は、とっても効率が悪いのだが、羽田に戻ってくるまで一事が万事この調子であった。毎回思うのだが、背番号か何か付けた方が参加者のためでもあると思うので、ぜひ検討願いたい。GPS埋め込むのも行方不明には有効な手段です。

羽田で、チェックインの列に並んでいる時から、体調が悪く2日間、お粥しか食べていない人がいたりと、不安だらけではあるが、無事参加者全員でドバイへと旅立つ事が出来た。ある一つのものを除いては…。

エミレーツ航空の機内は天井にLEDの星空が表現され、各座席のプライベートモニターも大きく、機内も清潔に保たれていた。モニターに映される情報の中には、「キブラコンパス」なるものが表示される。見掛けは方位磁針であるが、その矢印の方向はムスリム（イスラム教徒）の礼拝の方向、メッカを指したコンパスである。どこにいても時間になれば礼拝が義務付けられているムスリムならではのもので、このコンパスは、羅針盤が作られた頃から存在するらしい。そして飛んでいる飛行機の中でメッカの方向を探すのは非常に難しいと、妙に納得するのであった。飛行機の中では特筆するべき事件は起きなかったが、私の後ろの席から時折「ガハハ」と大きな声が聞こえる。もちろん真後ろの席は、我らが会長、山岡氏である。元気が過ぎる会長ではあるが由、如学会はまだまだ安泰である。12時間弱でドバイに着陸し、機体がターミナルに向かっている最中に、歩き出す乗客。「ダメだよ」とよく見たら、うちのグループである。この徘徊行動もこのツアー中、よく見かける光景であった。

いつから騒ぎになっていたのかはわからない。ドバイに早朝到着し、迎えのバスに乗り込んだ直後から、ざわざわと参加者が騒がしい。A氏「入れ歯がない」「羽田ではあった」B氏「じゃー機内で落とした?」

…まじか!

これから、美味しい食事がいっぱい設定されている、旅行のその地に着く前に、総入れ歯の上下共なくすとは、大変気の毒ではあるが、自分ごとではないので、苦笑いしか出ない。到着した**ドバイ国際空港第3ターミナルビル**（写・1）は、設計をフランスのパリ空港公団、施工を竹中工務店が受け持ったもので、2008年に開港したエミレーツ航空専用のターミナルである。

1日目、日付は現地10月19日の金曜日である。ドバイは金曜日が休日で、普段に比べると渋滞は少なく、ホテルまでの道程はスムーズである。ホテル到着後、早速市街観光へ向かう。気温は朝なこともあって、摂氏27度。「なんだ、過ごしやすいじゃないか!」の感想は、この時だけであった。

バスでドバイ市内を通り、ドバイの情報、注意点などを、ガイドのゆきこさんから説明を受けながら、最初に訪れたのが、**ブージュ・アル・アラブ**。（写・2）皆さんご存知の全てがスイートルームの7つ星ホテル。海に建つ外観だけの見学を、岸側のジュメイラビーチから見学。全ての部屋がメゾネットタイプなので、3200m以上ある建物だが、そこまでの高さは感じられない。ヘリポートからのチェックイン、アウトもできる、ハイクラスなホテルであることは間違いない。アラブのダウ船の帆からイメージされた外観だが、本体の構造に、外部のフレームはあまり関係ないらしく、帆の形のみをフレームで表現しているらしい。建物の平面はハの字型に開かれ、開いた部分の外壁は、膜構造で覆われ、内部吹き抜けに光を与えている。らしい。このビーチで、最初の集合写真（写・3）を撮ることになったのだが、15分の見学時間に、集合写真に5分以上かかった。〈バスから降りる→対象の写真を撮る→振り向いて写真を取られる→バスに乗る〉如学会ツアーのルーティーンである。

パームツリーの平面を持った人工島に、集合住宅、高級別荘地、商業地域で構成された、**パームジュメイラ**（写・4）は三箇所でできる予定であるパームアイランドの一つで、2006年から移住が始まった最初に竣工した島である。周囲を11kmの防波堤で囲われ、中心の島部分と海底トンネルでつながっている。

見学は幹の根元にあるモノレールで、外周部の中心に当たる**アトランティスホテル**（写・5）まで乗車する工程で行われた。乗車前には、トイレ休憩が取られたが、出てこない人がいるは、自販機でお釣りが出てこないと騒いでいる人がいるはで、テンヤワンヤなんとか乗車。アトランティスホテルの駅では、エスカレーターを降りて、迎えに来ているバスに乗り込む予定だったが、折り返す電車に乗っている人がいるし、もう大慌てである。「乗らないよ!」と叫んでも、何処吹く風。そりゃーそうだ。本人は、モノレールで戻ると信じ込んでいる。なんとか引き止め、迎えのバスに乗車。アトランティスホテルは、アトランティスをテーマに建設されたバハマ、ナッソーの姉妹ホテルであるが、開業前の火事によりオープンが遅れた経緯があるそうだ。高層ビルの万国博覧会のようなドバイであるが、リゾート施設も世界中のリゾートを集めたような雰囲気がある。ここもどこかハワイの雰囲気がしてならない。

バスに乗り込んだ一行は、現在ドバイでも急成長している**マリーナ地区**（写・6）へ向かう。その中でひときわ目立つのが**カヤン・タワー**である。このねじれた外観を持つタワーは307mの高さがあり、アメリカの組織設計事務所、SOMが設計した。地上から最上階までちょうど90度ねじれた状態で建っている。現在、ねじれたタワーとしては上海のタワー〝上海中心〟（632m、2016年竣工）に抜かれたが、それまではねじれたビルで最高の高さだったらしい。「ねじれたビル」カテゴリーで高さを競うのもよく意味がわからない。

バスは**オールドドバイ**と呼ばれる**バスタキア歴史地区**（写・7、8）へ到着。この地区は**アル・ファヒディ地区**とも呼ばれている。ドバイの街がここから始まったと言われている場所で、歴史的な建物を復元、改修し、テーマパーク的に整備した場所で、綺麗すぎてありがたみに欠ける。もちろん、昔からの集落を感じることができ、中庭形式の住居、風を採り込む「**風の塔**」（写・9）、そして壁の作りは塗り壁でできているが、中に積まれた通常日干しレンガ等で構成されるところは、サンゴでできていた。

昼食は、**メイダン競馬場**（写・10）のホテルでビュッフェである。途中自然保護地区を通るが、そこにいるフラミンゴが白い。フラミンゴがピンクなのは世界共通じゃないことに驚くが、スピルリナによって体がピンク色に染まるため、スピルリナのないドバイではフラミンゴは白い、ということになるらしい。ちょっと調べたら、またびっくり。動物園のフラミンゴがピンク色なのは、どうやらβカロチンを餌に与えているらしい。

メイダン競馬場は**メイダンシティー**と呼ばれる開発の中心施設で、2010年に竣工した、競馬場である。日本では、世界最高賞金レースのドバイワールドカップが行われる競馬場として有名で、この競馬場にザ・メイダンホテルが併設されている。曲線を持った競技場側の客室バルコニーは、競馬場を見渡し、宿泊者はこのバルコニーからレースを観戦する。特徴的なのは、浮いているように見える三日月型の屋根で、この屋根部分に、日本設計がコンサルに入ったと聞いている。

このホテルの**レストラン**（写・11、12）が、本日の昼食会場で、各国の料理が並び、日本食、バーベキューや生牡蠣まであり、相当に豪華な昼食である。入れ歯がないと感じさせないぐらい食べている人もいるし、ワインにビールをガンガン頼んでいる。生牡蠣も結構食べている人がいる。でも、一番盛り上がったのは、豪華なトイレの話だった。行きたくない人まで、トイレに行く。

ここからバスで船着場まで移動し、**ドバイクリークの渡し舟**（写・13）に乗った。**スパイススーク**、**ゴールドスーク**見学のためである。スークとは市場のことで、現在は観光客向けではあるが、活気溢れる市場を感じることができた。ゴールドスークには世界最大でギネス記録にもなっている、ゴールドの指輪（非売品）が展示されていた。スパイスはイランから輸入されているものが多いそうだが、その代わりに家電製品などを積んで帰っていくその船はドバイで荷物を降ろし、そうだ。

その後、**ドバイ銀国立銀行**（設計：カルロス・オット）（写・14）、その横にある**商工会議所のビル**を見学したが、だいぶ疲れているのかドバイクリークの風景を眺めている人が多い。余談ではあるが、ドバイクリークは釣り禁止だそうであるが、目の前で釣りをしている人がいる。気のせいではない。

夕食は、市内**グランドハイアット**内のレバノン料理のレストランであるが、このホテルも、えげつないぐらい豪華なホテルで、吹き抜けの大きなスペースは、水を使った植物園と見紛うほどの植栽が植えられていた。レバノン料理は、大変な量で、ベリーダンスのショーがセットになっている。もちろん見物客が一緒に踊らされる羽目になるのだが、率先して出て行ってしまうのが長谷川順持氏であり、巻き込まれるのが私である。妻子が、しかも子供三人の父として、お見せできない写真が数多く撮られてしまった。SNSでの拡散に戦々恐々としているが、今のところ大丈夫なようである。ベラルーシ出身のダンサーの素晴らしいショーを最後に、1日目の予定が終了した。ホテルに帰って気が付いたのだが、部屋の天井にもメッカの方向を指す矢印が、きちんと付いていた。

2日目、この日の朝はすでに34度だが気温以上に暑く感じる。早速この日のメインイベント、**ブージュ・ハリファ**（写・15）へ向かう。

829m、雲の上から地上を見下す、地上からはその頭頂部が霞む世界最高の高さを誇る超高層ビル、ブージュ・ハリファは、2010年にオープニングを迎えた。設計を、アメリカのSOMが担当し、施工を韓国のサムスン系列の会社が中心となり実現した、ドバイの開発の象徴ともいうべき建物である。F・Lライトのシカゴに構想された「マイル・ハイ・イリノイ」に着想し、なんども高さの変更が加えられたこのプロジェクトは、多難の連続であったそうである。金融危機の影響で、アブダビからの膨大な借り入れをおこなったり、劣悪な労働環境から、暴動が起こったり、竣工直前にタワーの名前が変わったりと、そんな苦難を乗り越え、現在の姿がある。

イスラムの文様やヒメノカリス（ヒガンバナ科）から想起した平面形状が、上昇するにつれ、少しずつ減衰していくプランは構造的にも、ホテルや、居住施設における採光などの面からも非常に有効だったらしい。またトスパンずつ膨らみを持った外壁部を持つため、複雑な形状に見て取れる。

屋外展望台「At the Top」（写・16）と名付けられた展望台は、屋外に出ることのできる452m、124階に設置されている。この、展望台へは、独立したエレベーターを使うのだが、待ち時間の間、ブージュ・ハリファの建設過程や貢

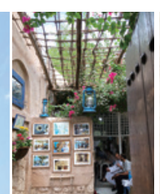
屋外展望台からの眺望（写・16）

＊ブージュ・ハリファ（写・15）

ドバイ銀行（写・14）

メイダン競馬場のホテルレストラン（写・11、12）

メイダン競技場（写・10）


ドバイクリークの渡し船（写・13）

風の塔（写・9）

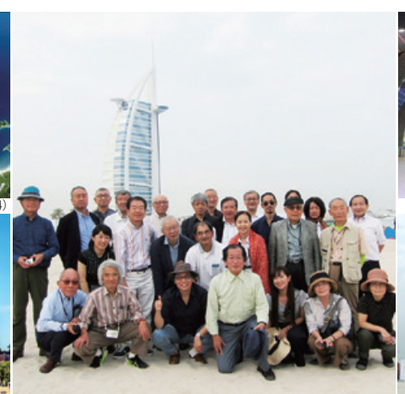
バスタキア歴史地区（写・8）

バスタキア歴史地区（写・7）

マリーナ地区（写・6）

＊パームジュメイラ（写・4）

＊アトランティスホテル（写・5）


ブージュ・アル・アラブを背景に集合写真（写・3）

＊ドバイ空港（写・1）

ブージュ・アル・アラブ（写・2）

献した技術者などの紹介、たくさんの模型など、飽きさせない工夫が施されている。退屈させない工夫はエレベーターのカゴ内部でも、LCDディスプレイなどで、現在の位置が表示されるような工夫が施されていた。展望台から見える風景は、旧市街から、新市街、全てを360度見渡せ、砂漠から近代都市がすべてごった煮で視覚に入ってくる異様な光景であり、ドバイという一首長国の街に矛盾を含め、手に取るようにわかる光景であった。展望台の内装も細部に豪華な装飾をあしらった作りで、ここが地上から452mの場所だとは外を見るまで、全く感じない作りで感心してしまう。ドバイモールから展望台までのストーリーが感じられる構成で、日本人はティテールはすごいんだけど、こういう構成力は弱いなーと考えてしまった。

ブージュ・ハリファは数々の世界一のある建物である。そしてこの建物が建設される前、世界一の高さだったのが、台北101であり、ともに如学会旅行で訪問したことになる。このブージュ・ハリファを抜くのが、サウジアラビアに建設中の**ジッタ・タワー**（1008m）で、おそらく遅れるとは思うが、2020年に完成予定であるし、世界一高い展望台は上海の**上海中心**（561m）である。会長、次どっちにしましょうか、と言いたくなるぐらい、如学会は高いところが好きなようである。ちなみに1000m越えると、**「ハイパービルディング」**と呼ぶらしい。

ここからはフリータイムである。展望台へ上る前に決めた待ち合わせ場所を、それぞれが買い物をしながら目指すわけだが、今回の旅行はいつもの如学会旅行とは少し違う。迷子になりそうな人が、自分が迷子になりそうだと自覚しているのである。だから、添乗員や現地ガイドにびったりとくっついている。ちょっと安心しながら、それぞれが勧められた買い物をしてゆく。中東のゴディバと言われるパッチ、ラクダミルクのチョコレート、ラクダミルク石鹸。そんなお土産を買い込んで、ドバイモールをあとにした。とにかく大きいドバイモールで行方不明者を出さずにクリアして、昼食を取る予定である**アジアナホテル**へ向かう。

アジアナホテルは韓国系のホテルであるが、ブッフェはアジア系全般、もちろん日本食も揃えた豪華なものである。もう、歯がないとか、お粥しか食べられないとか、そんなこと言っている人がいたのを忘れるぐらいすごい食欲でせっせと食事を運び食べ、また運ぶという光景は圧巻である。正直、参加者の中で若手と言われる46歳の私もその食欲についていけない。

食事を終えた一行は、ビジネス地区にある、**オーパスタワー**（写・17）の外観を見学するため、バスに乗り込む。オーパスタワーは東京オリンピックスタジアムで何かと話題になった建築家**ザハ・ハディド**の作品である。まだ建設中であるが、ビル中央に有機的にえぐられた穴が印象的な建物で、よくこんな複雑なガラス形状を作ることができるなと感心してしまう。批判含め、話題性のある建築を世に送り出していた建築家だと思う。形態を出現させることに意味のある建築家はそう多くはないが、間違いなくその一人だった。スタジアムの案は、あのままどこか他の国でもいいから作ってくれればとさえ思う。ここから、構造フレームがほぼ立ち上がった**未来博物館**（写・18、19）の現場を外部から、3Dプリンターでできた政府の**ガイダンス棟**（写・20）の外観（幸運にも、ちょこっと内部も）を見学したあと、**ドバイフレーム**（写・21）に向かう。

ドバイフレームは、「ドバイの歴史と50年先のドバイをつなぐ」をコンセプトに掲げた、ウォークスルー型の観光スポットである。高さ150m、幅93mの金色のフレームは、ちょうどオールドドバイとニュードバイの間に立ち、それぞれの街を一望できる。また、床も一部ガラスでできている。フレームの模様は首飾りをモチーフにした円環があしらわれている。ここは2018年1月にオープンしたばかりの新名所だけに、ものすごく混んでいて、チケット窓口も混んでいた。門の中にあるトイレだけとりあえず貸してもらう交渉をして、一人ずつなら、という条件付きで許可が出たのに、そのまま押し切って数人が門の中に。さすが先輩と感心してしまう。チケットを買ってからも長蛇の列が全然進まないので、イライラしている他の観光客もいたのだが、如学会チームはそんなことではイライラしない。後からきたイタリア人の美女軍団にほだされ、列の前に入れてあげちゃうのだ。これもまたさすが先輩方。ドバイフレームでは夕日も見ることができ、見学を終わる頃には、もう日も落ちて辺りは暗くなっていた。

ドバイクリークの旧市街側にいる。夕食は船上バイキングである。古い貨物船を改造し、レストランとして利用しているのだが、中ではショーなどもあり、楽しめる工夫盛りだくさんである。当然、お酒となるのだが、みなさん食前の薬（血糖値、血圧…）を飲んでからの、飲酒である。盛り上がりすぎて、ほとんど夜景を見ていない。この船上ディナー、昨日のベリーダンス含め、今回のドバイツアーは、価格的にもリーズナブルだったなとしみじみ、夜景を見ながら思うのであった。

3日目、アブダビへ向かう。このツアーのメインイベントだと勝手に思っている、**ルーブル・アブダビ**を見学にする日である。ドバイとアブダビは車で約2時間弱道のり。その間の海岸線には工場などが多く、特にアルミニウムの工場と海水淡水化施設が目に付く。ドバイには、世界でも有数の産出を誇るアルミ精錬工場があり、石油に頼らない政策が進められている。またドバイで使われる水はこの海岸にある施設で海水を淡水化して利用している。飲料水などにならない水は積極的に再利用されているらしい。

アブダビは、ドバイと同じ7つある首長国の一つであるが、面積で言えば、アブダビ87%、ドバイ5%と圧倒的にアブダビが大きい。さらに政治は、このアブダビが中心と言われている。アブダビには水の出る**ハジャール山脈**や、世界一高い砂丘の**モリーブ砂丘**、世界遺産の**アル・アイン**などがあり、国土の広さを感じさせる。

最近では、経済発展の著しいドバイに負けじと、様々な開発が進んでいる。最初に訪れたのは、レジャー開発された**ヤスマリーナ地域**。ご存知、F1GP最終戦アブダビGPが行われる場所である。ヤス島に、サーキットを中心に、**ホテル**（写・23）、**ショッピングモール**、**フェラーリワールド**という施設が並んでいる。この中のサーキットを上から見学。爆音とともにF3らしき車がサーキットを走行中であった。このサーキットではお金を出せばフォーミュラーカーが運転できるらしい。素人に運転させるなんてありえない。さすがアブダビである。ホテルは、矩形のホテルの建物に有機的なガラスの表皮が覆いかぶさっている。恐らくは熱環境を考慮した結果だと思われるが、非常に近未来的な造形をしている。

お酒が禁じられているため、ここで優勝するとシャンパンファイトではなく、スプライトファイトでお祝いするそうだ。そういえば、イスラム教徒が禁じられている、お酒と豚肉であるが、その理由まで考えたことが今までなかった。お酒は、厳しい日差しの中で酔っ払ってしまうと命に関わるから。豚肉は生焼けで食べると様々な病気にかかるからで、よく焼くための木も少ないからだそうである。そんな理由？とちょっとびっくりした。端的にいうとそうであるが、もっと宗教的には色々理由が付け加えられているらしい。嗜む程度にお酒飲んで、ガス引いて、よく焼いて豚肉を食べればいいと、簡単に思ってはいけないのだと思う。

爆音を後に、バスは**サディヤット島**へ向かう。このサディヤット島は博物館を中心とした、カルチャーディストリクト的な開発を目指しているようで、我々が今まで目にしてきた著名な建築家の博物館、美術館プロジェクトが構想されているが、現在できたのは、今回目指す**ルーブル・アブダビ**（写・24、25）のみである。

イスラムの街を表現し、そこに大屋根をかけた単純な構成であるが、規模が圧倒的である。特にかけられた大屋根はライズの低い美しいカーブを描き、その屋根は何層にもイスラム独特の模様をあしらった表皮を重ねてできている。美術品は、建物の中に展示されているが、その展示室をつなぐ外部の通路には、大屋根から木漏れ日が差し込み、幻想的な風景が生み出されている。外周部にいけば、その庇の先につながる海と一体化する風景が、ヒューマンスケールを超えた小宇宙を、この庇で作り出してしまっている。圧巻の建築である。設計はフランス人建築家、**ジャン・ヌーベル**。パリでは、**アラブ世界研究所**でイスラム文様が日差しによって開閉するソーラーコントロールを作った建築家である。本当に美しい風景が広がる建築で、時間の経つのも忘れてしまうほどの感動があった。この屋根は八層構成で、外側4層がステンレス、内側4層がアルミニウムが使われ、直径180m、総重量7500tの巨大屋根は、エッフェル塔と同じ重さでできている。この屋根の恩恵で、屋根の下では気温が5～6度下がるということだ。

一応、山岡会長たっての願いで、**フランク・O・ゲーリーのグッゲンハイム・アブダビ**（写・26）予定地にバスを向けたが、更地であった。更地を見学するってところが、如学会っぽくていいと思います。

アブダビ市内で**ノボテルホテル**の上の中華で、昼食を済ませる。昼食後は市内をバスから眺めながら、**キャピタルゲートタワー**（写・27）へ向かう。この建物、色々また競い合っているのだが、今度は傾きの角度で世界一だそうである。18度傾いているのだが、競い合っているのは、**ピサの斜塔**であり、ドイツの**ズールフーゼン**という建物らしい。そのどちらもが、人為的に傾いているわけではない。それ競ってどうするの？と思うが、なんでも一番がいいということなのだろう。二番じゃやっぱりダメなんでしょうか。この建物にはホテルやオフィスがはいっており、また国際展示場が併設されている。傾いていない側の表皮が伸びていって、展示場の屋根になっている。これもまた面白い造形を生み出している。見学に向かう最中、道路の円形交差点を横切る団体は、警備員に注意される一幕があった。そういえば、横断歩道以外を渡ると罰金とガイドさんに言われていた。怒られただけで通報されずに済んで本当に良かった。ニュースになって学校の名前を汚しかねない。

アブダビ最後の見学地となる、**シェイク・ザイード・グランド・モスク**（写・28、29）へ向かう。世界最大級の規模を誇るこのモスクは礼拝時4万人を収容でき、円柱の本数は1000本を越える途方もない大きさである。さらには、世界一大きいスワロフスキーのシャンデリアや、すべて手織りのペルシャ絨毯など、豪華な装飾に彩られた建物でもある。シェイク・ザイードとはアラブ首長国連邦初代大統領で、このモスクの建設を指示した人である。本人はこのモスクを見ることはなかったが、完成し、最初に執り行われた儀式が、シェイク・ザイード氏の葬儀だったことは有名な話である。とにかく目を奪われる建物ではあるが、さらに目を疑ったのが、私の主治医の歯医者さんと出会ってしまったことである。学会のついでに観光していたそうで、いきなり「オー！！」と言って、話始めたから、他のツアー参加者はビックリしていたのではないかと思う。

最後の晩餐は、再びドバイモールに戻り、有名な**イタリアン BICE-MARE**（**ビーチェ・マーレ**）で食事となった。ブージュ・ハリファの足元に広がるドバイモールは、中央を大きな人工池を作りその周りにレストランが並んでいる。中央に人工池では、ドバイファウンテンの噴水ショーが30分に一回行われる。横幅275m、高さ最大140mも吹き上がる噴水に照明があてられ、音楽に合わせ幻想的な空間が作られる。この噴水ショーは**ラスベガスのベラージオ**の噴水を手がけたチームがおこなったもので、しかも30分ごとのショーはすべて音楽が違う設定になっている。これは本当に美しかった。

そして、イタリアンもドバイで食べているとは思えない、本格的なイタリアンで、こちらも堪能できた。また、竹中工務店の澤田氏から、ワインの差し入れをいただいた。トスカーナ、DOCGのキャンティを楽しみ、最後の晩餐はお開きとなった。ホテルに到着したのは23時半。明日の朝は5時集合ということで、急いで帰国の準備を済ませ就寝。

4日目、頼んでいないモーニングコールが3時50分に鳴る。なんだ？間違いかと思いながら、集合より早めにロビーへ降りると、随分前からそこにいた形跡の人が、いっぱいいる。そう、全ての部屋に要求していないモーニングコールがかかっていたらしい。（僕は密かに添乗員の仕業だと思っているが）だから、起きてしまって、ロビーに降りてきてしまった人たちが大勢いたわけだ。そのおかげでほぼ遅れることなくホテルを出発。現地ガイドのゆきこさんに「あなたは、帰らないの？」と投げかける参加者。ゆきこさんは現地在住です。ということで、ガイドさんとお別れし、夜遅くの帰国となるので、ドバイ空港での「解団式」を行い、無事帰路につくことができた。

3泊5日の弾丸ツアーであったが、大事に至るハプニングもなく、日程を消化することができた。また、今回の旅行でも、山岡事務所の血と汗と涙の結晶である分厚い資料集を参考に、とても有意義な旅行を経験することができた。旅行の計画に携わっていただいた方々に感謝申し上げてこの報告を終わりにします。もう一つ、行方不明になっていた食べるときに必要なものは、羽田で見つかり、無事本人の元へ戻ったそうだ。旅行中、歯がない人がいるなんて半分忘れていたのですが。

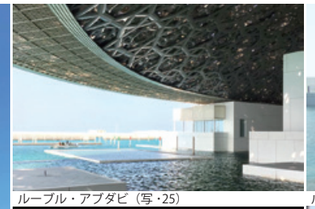
西山広朗　フランス・EU加盟国認定建築家／ArchitectedE.S.A.
平成7年、武蔵工業大学（現・東京都市大学）卒。平成10年渡仏。
Ecole Speciale d'Architecture 卒業。Manuelle GAUTRAND Architecte、新居千秋都市建築設計を経て、平成19年、西山建築デザイン事務所設立。

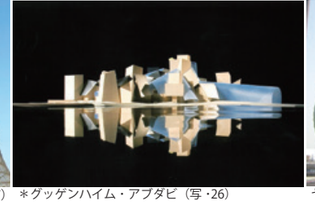
＊印は資料画像、それ以外は全て撮影・山岡嘉彌

シェイク・ザイード・グランド・モスク（写・28、29）

キャピタルゲートタワー（写・27）

＊グッゲンハイム・アブダビ（写・26）


ルーブル・アブダビ（写・25）



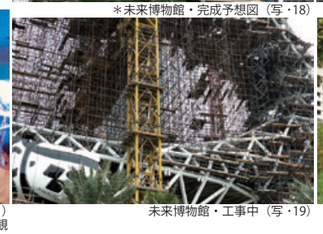
ルーブル・アブダビ（写・24）

ヤス・ホテル・アブダビ（写・23）

船上レストラン、左手前が筆者・西山（写・22）

ドバイフレーム（写・21）
上：外観、下：最上階ブリッジ部分内観

＊未来博物館・完成予想図（写・18）


未来博物館・工事中（写・19）

オーパスタワー・工事中（写・17）

ガイダンス棟（写・20）

report

スライド懇親会報告
「ドバイ・アブダビ旅の学び」

長谷川順持（S61 卒／長谷川順持建築デザインオフィス）

シンカスカイテラス

シンカホール

スライド懇親会

2 月 15 日、バレンタインで浮かれる男衆の頭を冷やすべく、一気に雪が降り出した東京。忙しい週末の金曜日、15 時から集合するという懇親会に参加できる方々は決してカタギの職業ではない。そんな日に、しかも大雪が降りだした！参加者の行いが天に通じ、雪は会スタート時には上がってくれていた。懇親会の場所は、昨年私が設計した SHINKA というイベントホールとスカイテラスコミュニティを敷設した建物にて、大型のスクリーンに参加者の持ち寄ったスライドを写し出し、それを肴に語り飲食を楽しんだ。すこしばかり、会場となった SHINKA の内覧も行いつつ、夜半まで会は続いた。旅は楽しい。座長の山岡さんはじめ、諸先輩方との交わりも東京とはまた違い、ハメを外した深い懇親となる。そして、旅を語り合うのは、また愉しい。如学会の旅は、アクシデントが良き思い出となる。今年からの旅も楽しみだ。

旅からいくつかの学び

★ 01 ｜砂漠に咲く華・ドバイの魅力と活力

ドバイを単なるバブルシティと見ることは浅薄だった。300 mを超える超超高層が 20 本に迫ろうという街（ニューヨークは 6 本程度）で、それらがこの 10 年でほぼ完成している。
意外に知られていないが、UAE で原油が採掘されるのはアブダビのみ。採れないからこそ、ドバイは砂漠に様々な世界一の華を咲かせている。建築は分かりやすいその顕在化のひとつでしかない。アラビアアカシア系の木をドバイでは象徴としているが、砂漠に活き活きと消息している。モスクでの祈りと過酷な砂漠に生きるガフの木は、ドバイの活力を見えないところで支えているに違いない。

★ 02 ｜ブルージュ・カリファとミース・ファン・デル・ローエの響き合い

ドバイのどこからでもその存在が確認できるこの建物は、頂上まで 828 m。スカイツリーの上に都庁を載せたような高さだが、遠景から見るとそれは圧倒的で、シルエットも美しい。（写真 1）プランのダイヤグラムは Y 型であり（図 1）、それが螺旋に上昇しながら細くなっていく。風に対してクリティカルな高さであることから構造ダイヤグラムとしての有効性も評価されている。最近知ったことだが、このプランの形は、有名なミースのフリードリヒスカイスクレーパー案（図 2）の基本ダイアグラムと共通性がある。ミース PJ は基準階が頂上まで繰り返されるが、ベースには Y 型が敷かれ、採光性に優れたそれをフリー曲線で覆う。幻想的なモンタージュは、どこか砂漠に浮かぶ摩天楼のようでカリファとイメージが重なる。

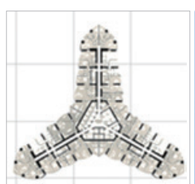


図 1

写真 1

図 2

左が筆者

architecture

YAMASEN Japanese Restaurant
アフリカ・ウガンダに建築

設計： 小林一行 （H18 卒／ TERRAIN architects）

建物正面

レストラン中庭テラス

施工中の監理の様子・左が筆者

レストラン内部

敷地傾斜と水平ライン

カフェの様子

ウガンダの首都カンパラに、京都発の日本料理店「やま仙／ Yamasen Japanese Restaurant」を中心とした商業施設が竣工しました。
カンパラの中心地からは 8km 程離れていますが、周辺にアメリカ大使館や欧米系 NGO の事務所などがあり、外交官や駐在員をはじめ多種多様な人種が居住する地区にあります。建物内には日本料理店の他にウガンダ産のなかなか美味しいコーヒーを出すカフェや、アフリカの布を使ったクラフトショップなどがテナントとして入り、特に休日や夜は様々な人々が利用するスポットとなっています。

このプロジェクトは、アフリカの学生達の寮である「AU dormitory」をカンパラ郊外のナンサナという街で常駐監理していた際に出会った人たちと共に、敷地選びや店のコンセプトつくりから始め、ようやくオープンを迎えられました。
私がウガンダを初めて訪れてから 15 年以上が経ちますが、首都カンパラや郊外の人口増加は著しく、街の風景も大きく変わってきました。周辺国からの移民や難民も含めて人口が増えている状況は朝夕の酷い交通渋滞などからも感じられ、35 年後には世界の人口の 5 人に 1 人がサブサハラアフリカの住人になるという国連の統計もうなずける勢いです。カンパラの中心街には人や車、バイクタクシーに溢れており、主要な幹線道路沿いには次々と同じ形式の大型ショッピングモールが建設されてきているような状況です。

そんな「バブル」を予感させるような騒がしい街の状況とは少し距離を置いて、少し落ち着いた場所をつくれないかと考えました。

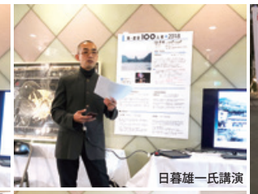
敷地はビクトリア湖から水を汲み上げて貯水するタンク <TANK> のある丘 <HILL> へ続く道路< TANK HILL ROAD> 沿いにあります。住宅やスーパーマーケットなどが建ち並ぶ中にポツンと空いた大きな土地は、もともとジャックフルーツなどの大小 5 本の木が立っていて、地元の子どもたちがその木々を避けながらサッカーを楽しむ広場でした。
緩やかな傾斜に見えたその土地は、測量してみると道路面から最大で 4m の高低差があることがわかりました。
この敷地で長年育ってきた木々と、緩やかに見えた 4m の高低差を持つ傾斜をこの土地の特徴であると捉え、それらを顕在化しながら、ここでしかできない体験を楽しむ場を目指しました。
既存の 5 本の木々を避けながら、傾斜に直行した長方形の平面を配置し、緩やかな斜面を登るように、人々が階段やスロープを少しずつ登りながら、日本料理店やカフェへと到達する計画となっています。

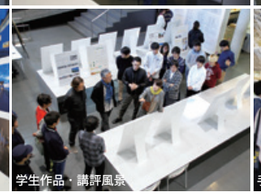
ウガンダ北部産の茅を使って葺いた大屋根は、ユーカリの木を組み合わせたフレームが 3m ごとに 16 本ならぶことで支えています。
ユーカリはオーストラリアが原産の材ですが、成長が早いためウガンダでも多く植林され、安価な建材として市場に出回っています。ただ、現地の製材技術が低いため、材が曲がるなど、扱いにくく〝チープ〟な材として認識されており、細い枝のような状態で足場や支保工として使い捨てられるか、人目に触れない状態として使われているのが一般的です。

そこで、木材市場に出回っているユーカリ材を調査し、丁寧に選り分けを行った上で、家具製作のための乾燥窯を持つ工場で含水率をコントロールしました。その上で、複数の材を組み合わせてボルトで締めることで、それぞれの材がお互いの癖を補い、フレーム同士もつながることで大屋根をつくることを試みました。

クレーンなどの重機を使うとコストが大幅に上がってしまう現地事情もあり、フレームを人力で建ち上げなければいけないという制約もプロジェクトの大きなポイントとなりました。
それぞれのフレームのバリエーションを減らし、16 本を同じ方法で建ち上げていくというアイディアも現地の職人たちが日ごとに学習し、現場で混乱しないシンプルな方法を目指したためでした。
もちろん、頭で理解はしていたものの、現場では予想以上に様々なトラブルや想定外のことに直面しました。特に市場に出回っているユーカリ材のサイズがあまりにも不均一なことや、加工に予想以上に時間がかかったことには頭を抱えました。結果的に工期は延びましたが、大工や茅葺職人などとモックアップを作りながら試行錯誤し、調整を重ねながら進めていった現場は、彼らの楽観的な考えにも助けられスリリングで刺激的な時間でした。
赤道直下の強い日射しを茅葺の大屋根が遮り、標高が高いため爽やかな涼しい風の吹く気候を楽しみながら、和食やコーヒーを味わうひと時は格別です。日本のような豊かな季節はないですが、一年中この爽やかな風を感じながら、ゆっくりとした時間を過ごすことができます。まだまだ日本からは物理的にも心理的にも遠いアフリカですが、お近くにお寄りの際は、ぜひウガンダまでお越しください。

「長崎と五島列島の教会群」写真展

山岡三治・上智大名誉教授講演

日暮雄一氏講演


学生作品・講評風景

手前は手塚貴晴教授

デザイン研究会作品

矢野和之氏講演

岩波智代子氏挨拶

大学展　　浅草展

東京都市大学「建築100人展／大学展＋浅草展」出展者・特別企画展示・講演会

主催：東京都市大学建築学科同窓会・如学会
共催：東京都市大学建築学科、東京都市大学同窓会・校友会

ご多忙中にもかかわらず、精力的にパネル、模型を作成され、ご出展いただきました各位に敬意を表し、心より感謝申し上げます。

招待展示／研究室紹介 （敬称略）

天野克也　東京都市大学教授
勝又英明　東京都市大学教授
手塚貴晴　東京都市大学教授
福島加津也　東京都市大学教授
堀場弘　東京都市大学教授
岩下剛　東京都市大学教授
小林茂雄　東京都市大学教授
近藤靖史　東京都市大学教授
大村哲矢　東京都市大学准教授
焦瑜　東京都市大学准教授
西村功　東京都市大学教授
大橋好光　東京都市大学教授
小見康夫　東京都市大学教授
佐藤幸恵　東京都市大学准教授
山口勝己　東京都市大学教授
宿谷昌則　東京都市大学教授
岡山理香　東京都市大学准教授（作品展示）

常設展示 （卒年順・敬称略）

岩崎堅一　（S37 卒）　岩崎建築研究室、本学名誉教授
宮本誠記　（S33 卒）　元・佐藤工業
中園正樹　（S39 卒）　松田平田設計
淺石　優　（S45 卒）　元･日本設計、元･本学教授
住吉洋二　（S45 卒）　都市企画工房、本学名誉教授
新居千秋　（S46 卒）　新居千秋都市建築設計、元･本学教授
堀場　弘　（S58 卒）　シーラカンス K&H、本学教授
山極裕史　（S59 卒）　三菱地所設計
手塚貴晴　（S62 卒）　手塚建築研究所、本学教授
手塚由比　（H04 卒）　手塚建築研究所
福島加津也（H02 卒）　福島加津也＋富永祥子建築設計事務所
羽鳥達也　（H08 卒）　日建設計
石上純也　（H09 卒）　石上純也建築設計事務所

企画展示 （卒年順・敬称略）

大森康幹　（S33 卒）　大森建築設計事務所
阿部　寧　（S38 卒）　NPO 建築･街づくり支援センター
中村陽一　（S38 卒）　軍艦島デジタルミュージアム、元･清水建設
相原俊弘　（S40 卒）　SDG
近藤信一　（S41 卒）　ファミリーネットジャパン、元･竹中工務店
白鳥健二　（S41 卒）　アトリエ COSMOS
秋山邦雄　（S42 卒）　歴史環境計画研究所
奥津孝一　（S43 卒）　設計センター
吉田　勝　（S43 卒）　PAO 設計
斎藤　博　（S44 卒）　S･ アーバンプランニング
淺石　優　（S45 卒）　元･日本設計、元･本学教授
新居千秋　（S46 卒）　新居千秋都市建築設計、元･本学教授
鈴木　亨　（S46 卒）　鈴木工務店
山岡嘉彌　（S46 卒）　山岡嘉彌デザイン事務所
丹羽譲治　（S48 卒）　デザインサークル
皆川　滋　（S48 卒）　寺町美術館＆ gallery
白岩且久　（S49 土木卒）白岩工務所
熱田晴一　（S51 卒）　日建教育奉仕会
石原和男　（S51 卒）　石本建築事務所
酒井孝博　（S51 卒）　日本設計
相越信秀　（S52 卒）　鉄建建設
尺田可規　（S52 卒）　スクエア
高屋利行　（S52 卒）　高屋設計環境デザインルーム
沼田直樹　（S52 卒）　アルクデザイン
舟岡　努　（S52 卒）　舟岡技術士事務所
北野一彦　（S54 卒）　鉄建建設
小林捨象　（S54 卒）　捨象設計ランドスケープ
相馬吉克　（S55 卒）　石本建築事務所
露木博視　（S55 卒）　オフィス露木
時女祐一　（S55 卒）　佐藤工業
相邑美佐江（S56 卒）　ナウミスペース
伊東俊之　（S56 卒）　野生司環境設計
清野修平　（S57 卒）　観光企画設計社
小林秀憲　（S57 卒）　松田平田設計
鈴木賢司　（S57 卒）　石本建築事務所
本多　豊　（S57 卒）　LAN
荒尾拓司　（S57 卒）　飛島建設
瀬下耕司　（S58 卒）　鉄建建設
堀場　弘　（S58 卒）　シーラカンス K&H、本学教授
益子一彦　（S58 卒）　三上建築事務所
池田勝彦　（S59 卒）　イオンアーキテクツ
井手　勤　（S59 卒）　イオンアーキテクツ
大藪元宏　（S59 卒）　大藪元宏建築研究所
芝本敏彦　（S59 卒）　山下設計
白石　誠　（S59 卒）　新居千秋都市建築設計
山極裕史　（S59 卒）　三菱地所設計
吉崎良一　（S59 卒）　新居千秋都市建築設計
上原英雄　（S60 卒）　石本建築事務所
大槻治彦　（S60 卒）　飛島建設
橘　昌夫　（S60 卒）　石本建築事務所
原田　聡　（S60 卒）　山下設計
丸目明寛　（S60 卒）　久米設計
長谷川順持（S61 卒）　長谷川順持建築デザインオフィス
手塚貴晴　（S62 卒）　手塚建築研究所、本学教授
三宅光太郎（S62 卒）　Kajima USA
三宅博子　（S62 卒）　Smith Group
伊藤　彰　（S63 卒）　久米設計
柏木穂波　（H02 卒）　カシワギ・スイ・アソシエイツ
三田知男　（H02 卒）　山下設計
伊藤　宏　（H03 卒）　石本建築事務所
井上　宏　（H03 卒）　久米設計
島田　大　（H03 卒）　旭ビルウォール
原健一郎　（H03 卒）　石本建築事務所
石田有作　（H04 卒）　アーキヴィジョン広谷スタジオ
遠藤克彦　（H04 卒）　遠藤克彦建築研究所
手塚由比　（H04 卒）　手塚建築研究所
鈴木治雄　（H05 機械卒）石本建築事務所
広瀬壮平　（H05 卒）　石本建築事務所
有阪貴之　（H06 卒）　石本建築事務所
小栗幹雄　（H06 卒）　ラウンドテーブル
甲斐信広　（H07 卒）　石本建築事務所
西山広朗　（H07 卒）　西山建築デザイン事務所
守谷眞儀　（H07 卒）　松田平田設計
横田　順　（H08 卒）　久米設計
飯塚正規　（H10 卒）　松田平田設計
栗田祥弘　（H10 卒）　栗田祥弘建築都市研究所
三好敏晴　（H10 卒）　造研設計
工藤貴子　（H11 卒）　冨川浩史建築設計事務所
眞田大輔　（H11 卒）　すわ製作所
渋谷　篤　（H11 卒）　日建ハウジングシステム
冨川浩史　（H11 卒）　冨川浩史建築設計事務所
岩崎　匠　（H12 卒）　竹中工務店
黄川田大介（H12 卒）　松田平田設計
上島麻里乃（H14 卒）　石本建築事務所
植谷英子　（H14 卒）　山岡嘉彌デザイン事務所
鈴木宏亮　（H14 卒）　すずき
富宇加潤　（H14 卒）　石本建築事務所
永山　剛　（H14 卒）　坂倉建築研究所
矢嶋陽介　（H14 卒）　観光企画設計社
野呂　学　（H15 卒）　松田平田設計
十河　彰　（H16 卒）　SOGO 建築設計
十河麻美　（H16 卒）　SOGO 建築設計
川端彩乃　（H18 卒）　入江三宅設計事務所
辻村典子　（H18 卒）　東畑建築事務所
中田裕一　（H18 卒）　中田製作所
中田理恵　（H18 卒）　中田製作所
浅井百合　（H19 卒）　浅井アーキテクツ
谷田要介　（H19 卒）　山下設計
平田　駿　（H20 卒）　久米設計
松下大志　（H20 卒）　石本建築事務所
田中祐太　（H21 卒）　三上建築事務所
成島　奨　（H21 卒）　PAO 設計
永井沙知　（H23 卒）　三上建築事務所
斎藤勝弥　（H24 卒）　三上建築事務所
志村　隆　（H24 卒）　松田平田設計
杉本　渉　（H24 卒）　三上建築事務所
町山玉魚　（H24 卒）　東畑建築事務所
伊藤達彦　（H25 卒）　大東建託
川又祐介　（H25 卒）　三上建築事務所
佐藤拓朗　（H25 卒）　三上建築事務所
松本悟志　（H25 卒）　三上建築事務所
浪川稜馬　（H25 卒）　安井建築設計事務所
高麗夏実　（H25 卒）　三上建築事務所
平山大悟　（H25 卒）　石本建築事務所
木皿康彦　（H26 卒）　飛島建設
畑　雄人　（H26 卒）　東畑建築事務所
長谷秀人　（H27 卒）　東畑建築事務所
飯島広大　（H28 卒）　久米設計
川島俊哲　（H29 卒）　東京都市大学 堀場研究室
加藤　洲　（H29 卒）　東京都市大学 手塚研究室
山村尚子　（学外）　すずき

特別企画展示・講演会 （卒年順・敬称略）

「長崎と五島列島の教会群」
写真展：三沢博昭（S42 卒）写真家（故人）
（協力：三沢フォトライブラリー）
日暮雄一（H05 卒）日暮写真事務所
講演　：山岡三治（上智大学名誉教授）
矢野和之（S44 卒）文化財保存計画協会
挨拶　：岩波智代子（故・三沢博昭夫人
三沢フォトライブラリー）

「追悼：三宅敏郎先生」
野村春紀（S48 卒）元 ･NTT ファシリティーズ

同時出展：
設計･学園祭課題／ 3 研究会＋学部 2 年生

浅草展･照明：プロジェクションライティング
小林茂雄教授＋小林研究室

協力・協賛 （敬称略・順不同）

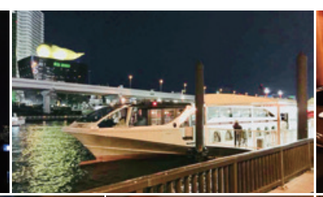
ご協力・ご協賛いただきました各社、各位には厚く御礼申し上げます。

企業出展	佐藤工業	三晃金属工業
	JR 東日本都市開発	須賀工業
	スターツ CAM	大成ユーレック
	鉄建建設	ノザワ
	フジタ	
特別協賛	総合資格	
協賛	ウッディワールド	鉄建建設
	小柳（浅草）	小澤紀
	石田彌	長沼一雄
会場提供	隅田公園リバーサイドギャラリー	

2018.11.03［土・祝］－ 11.04［日］（大学）
2018.12.01［土］－ 12.09［日］（浅草）

「建築100人展2018 大学展」＋「浅草展」盛大に開催

浅草展では、特別展「長崎と五島列島の教会群」（世界遺産）写真展＋講演会を開催
初日・オープニングパーティクルーズ（大型船貸切）に仕出し、差入れの飲食全てを持込み、手づくりパーティ。
冬の夜空に冴えわたる豪華な花火も堪能。



五島育英会･高橋遠理事長（手前）

船上パーティの様子　　貸切大型クルーズ船に 100 名余りが乗船。浅草展会場脇の船着場から出港。飲食、会話、花火を楽しんだ。　　パーティクルーズは、今年も嗜好を変え、バージョンアップして実施します。奮ってご参加下さい。

アンケートからみる 感想の数々

大学展

■アイデアが形になるって素晴らしいと思います。卒業生の層の厚さを感じました。（一般・60 代男性）

■全体を通して作品のレベルがとても高く、勉強になりました。たまたま見学させて頂きましたが、楽しかったです。（一般・20 代男性）

■娘が受験を考えています。卒業生の活躍が見れて良かったです。（一般・40 代男性）

■建築学科で学びたいと、より思えました。（高校生・10 代女性）

■大変見応えがありました。本物の建築だけでなく模型もひとつの芸術作品のように素晴らしかったです。（一般・50 代女性）

■卒業生の様々な建築物を知ることが出来て非常におもしろかった。（本学他学部学生）

■年々、斬新な設計の建物が増え、これからも無限の可能性があり楽しみです。期待しています。（一般・60 代男性）

■第 13 回とはすごいですね。もっと多くの OB・OG に出展して欲しいところです。（本学 OB）

■同期の作品も見れて素晴らしい作品の数々でした。（本学 OB）

■どれもみな力作でした。（本学他学部 OB）

■卒業生の様々な建築物を知ることが出来て非常に面白かったです。（本学他学部学生）

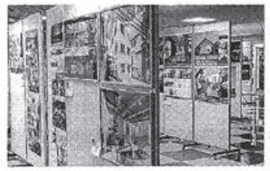
■卒業生の設計した建築物写真を見て、武蔵工大生は活躍しているなと思いました。（本学 OB）

■息子が建築を学んでおりますが、私は全く建築の事がわからずで、今回先輩方の作品を見ることができ、感謝しております。（一般・50 代女性）

■例年より地味だった。展示物のタイトルや特記を大きく表示してはどうか。（本学 OB）

■オープンキャンパスで見た学生の作品とはまた違った作品を見ることが出来て良かったです。（高校生）

■ 100 人全部読むことは出来なかったが、わかりやすく楽しめました。（本学学生保護者）



東京都市大学建築学科の同窓会「如学会」が、卒業生の活動を紹介する「新・建築100人展2018浅草展」を東京都台東区の隅田公園リバーサイドギャラリーで開いている。約80

卒業生の代表作や在校生の課題展示

東京都市大学建築学科同窓会

新・建築100人展

東京・浅草で9日まで

00人の会員のうち意匠や構造、設備、家具、インテリア、絵画などの分野で活躍している130人以上がパネルや模型、制作作品を出展。在校生が取り組んだ研究や課題の成果も紹介している。会期は9日まで。

建築100人展は、建築学科OB・OGの多岐にわたる実社会での活動を紹介する。2006年に新建築学科棟の落成記念として第1回を開催。その後、毎年130人以上の卒業生の活躍をパネルや模型で紹介

恒例の行事となり、10年の5回目から学外展示（巡回展）も始まった。

今年の学外展示は、隅田川沿いの公園に面した長さ約100㍍の展示スペースが会場。卒業生が新作にこだわらず過去の代表作や自信作を写真や模型、図面などで紹介している。在校生の三つの研究会（構造アザイン、アザイン、都市計画）の2年生が取り組んだ設計・学園祭課題や、建築学科教員の活動紹介なども同時展示している。

新企画として講演会を開催

如学会の山岡嘉彌会長は、「試行錯誤しながらの12年だった。えどが一巡したこともあり、衣替えして新しい100人展としたい。その1回目として『新・建築100人展』と銘打ち、写真展と講演会を企画した」と説明。特別企画の「長崎と天草地方の潜伏キリシタン関連遺産」では、卒業生で写真家の三沢博昭氏（故人）と日暮雄一氏の作品を展示している。

1日には山岡三治（上智大学名誉教授、イエズス会司祭、日本管区長補佐）、矢野和之（日本イコモス国内委員会事務局長、文化財保存計画協会代表取締役）、日暮の3氏による記念講演が行われた。

開館時間は午前11時～午後7時。入場無料。

「日刊建設工業新聞」2018 年 12 月 5 日

多様な建築活動を紹介

東京都市大「如学会」 9日まで「新・建築100人展」

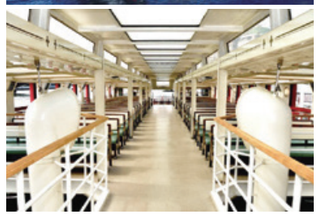
東京都市大学建築学科の同窓会「如学会」が主催、同建築学科と同大同窓会「校友会」が共催する「新・建築100人展2018」浅草展が、東京都台東区の隅田公園リバーサイドギャラリーで9日まで開かれている＝写真。

13回目を迎える今回は、長く学生の鑑賞に耐える作品群として新たに「常設展示」枠を設けたほか、120人を超える卒業生が出展し、実社会での多様な活動内容を伝える企画展示や企業展示、さらに特別企画展示として、ことし世界文化遺産に登録された「長崎と天草地方の潜伏キリシタン関連遺産」写真展が、長さ100㍍に及ぶ展示スペースには在校生のインスタレーションなども同時に展示されている。

初日の1日には、いずれも同大建築学科の卒業生で、今回の世界文化遺産登録にも貢献した写真家の故三沢博昭氏と日暮雄一氏、矢野和之文化財保存計画協会代表取締役の3人の功績を紹介する講演会も特別イベントとして開催。

オープニング・パーティーであいさつした山岡嘉彌如学会会長は、2006年の第1回開催の経緯などに触れ、「試行錯誤しながらやってきた。昨年の12回で一回りし、今回は装いも新たに、『新・建築100人展』として趣向を凝らした」とあいさつし、高橋達五島育英会理事長や皆川勝東京都市大副学長、特別協賛する総合資格の岸隆司社長ら来賓からも期待を込めた祝辞が寄せられた。

「日刊建設通信新聞」2018 年 12 月 05 日



2019 年度も開催予定のオープニング船上パーティ（貸切）（P14、15 参照）のクルーズ船（定員 300 人）

アンケートからみる 感想の数々

浅草展

■ふらりと立ち寄ったギャラリーで、こんなに素晴らしいものを見られて感激です。（一般・40 代男性）

■卒業生の作品がこれだけ一堂に揃って展示されているのが素晴らしいと思いました。（一般・60 代男性）

■定期的な開催で頭が下がる思いです。これからも継続して頂きたく思います。（一般・60 代男性）

■ベテランの方も若い方も大きな成果を上げられていることに感動しました。建築家という仕事も夢があって素晴らしいと思いました。（本学他学部 OB）

■特別企画で写真展と講演会も開催され、とて素晴らしく充実したものでした。（一般・50 代女性）

■毎年、卒業生のクリエイティブな活動を拝見する機会をありがたく思います。（一般・40 代女性）

■卒業生の方々の熱と「100 人展」運営の愛情を強く感じました。（一般・50 代男性）

■建築展を初めて拝見しましたが、とてもエネルギーを頂きました。（一般・50 代女性）

■大学時代にお世話になった方々が大変活躍されていて誇らしく思いました。（本学 OB）

■見学の入りが悪いようなので広報の仕方を再考した方が良いのではないか。もったいないです。（本学 OB）

■建築に関しての様々な活動を見ることが出来て良かったです。模型などとても参考になりました。（他大学生・20 代男性）

■建築に興味を持ちました。（一般・60 代男性）

■初めて伺いましたが見応えがありました。自分が関わった仕事もあり、卒業生の方が手掛けたと知り感動しました。（本学 OB）

■毎年興味深く拝見しております。弊社が携わった案件の展示も数点あり、今後も皆様に価値ある商品の提供に努めていきたいと思います。（協賛会社）

■設計が多分野の観点から行われ、難しい所も多いものの新しいデザインが生み出されている様が見れて良かったです。固定概念をなくして、柔軟に取り組んでいる様子を伺えました。（他大学学生）

如学会主催、建築学科・校友会共催「建築100人展 2019・大学展＋浅草展」出展者募集

卒業生１００人の社会における活動を紹介します。

大学展：2019 年 11 月 2 日［土］-11 月 3 日［日］　会場：建築学科棟（東京都市大学世田谷キャンパス４号館）

11/1［金］	11/2［土］	11/3［日］	11/4［月・祝］
搬入・設営日	「建築１００人展 2019〈大学展〉」 10:00~18:00 入場無料		搬出・撤収日
各自で搬入又は郵送 詳細は今後のホームページ、メールマガジン「如学会 NEWS2019 秋号」にてお知らせします。	ＴＣＵ祭		出展作品は委員の手により搬送、保管の上「浅草展」会場に移動

浅草展：2019 年 12 月 7 日［土］-12 月 15 日［日］　会場：隅田公園リバーサイドギャラリー（予定）

12/6［金］	12/7［土］	12/8［日］	12/9［月］	12/10［火］	12/11［水］	12/12［木］	12/13［金］	12/14［土］	12/15［日］	12/16［月］
搬入・設営日	「建築１００人展 2019〈巡回展〉」 10:00~18:00 入場無料									搬出
	オープニングパーティ	搬出車両に荷積みし、倉庫に保管 後日、大学にて郵送作業								

■募集内容参考例

ジャンルの特定は致しません。
多分野からのご出展を受け付けております。
・意匠（建築設計 / インテリア）
・構造
・施工 / 工法（施工や管理における提案など）
・建築材料（開発や研究を含む）
・環境 / 設備（空調計画や照明計画など）
・ランドスケープデザイン
・家具 / プロダクトデザイン
・写真 / グラフィックデザイン
・アート
・ワークショップ活動記録
・メディア記録（雑誌の編集発行 /WEB による情報発信）

■「100 人展」出展は建築界、企業、大学等への「登龍門」となっています。
企業に所属されている若い方々の出展を歓迎します。

■ご自身での出展準備・搬入・搬出が困難な方はお手伝い致しますのでご相談ください。

会　　期：2019 年 11 月 2 日［土］－ 3 日［日］（搬入：11 月 1 日／搬出 11 月 4 日）
会　　場：東京都市大学世田谷キャンパス 4 号館・建築学科棟 1 階グランドギャラリー（製図室）
郵送・搬入先：〒 158-8557　東京都世田谷区玉堤 1-28-1
東京都市大学建築学科　担当　鈴木浩宛（郵送の場合は、11 月 1 日午前必着）
出　展　料：７，０００円（如学会会費未納者は会費＋出展料＝１０，０００円）（予定）
振　込　先：みずほ銀行　自由が丘支店　普通口座：１７７９８７５
口座名：ジョガクカイ「如学会」

■出展希望・問い合わせ連絡先 ―――― 建築１００人展実行委員長　丹羽譲治
E-MAIL: 100ninten2019@jogakkai.jp

女流ファイルー Part19

社会の多方面で活躍する女性卒業生を
順次ご紹介しています。

宗像智加枝 (S56 卒)

■file-90　夢のカタチ～偶然か必然か巡ってきた仕事とは。

国重要文化財「旧福島県尋常中学校本館」修復

県重要文化財「開成館」修復

H 邸

国登録有形文化財「柏原家住宅土蔵」改修
（現在カフェとして営業中）

MUNAKATA Chikae
1981　武蔵工業大学建築学科卒業
　　（広瀬研究室）
1981　山中工務店
1983　八光建設
2018　ラボット・プランナー

木造といえば広瀬鎌二と父が言うので、躊躇することもなく進んだ道でした。

研究室で行ったゼミ旅行、初めて本格的に古建築に触れて、こういうものもおもしろいと思ったものでした。しかし、父の反対にあって断念、卒業後は、住宅や店舗などをメインに設計施工で請け負う家業に従事することになりました。

もともと住宅は好きだったので、それはそれで面白く、いつかこんな仕事をしてみたいと思った、学生時代にご近所だったその住宅は、吉田五十八先生の設計になるものだったとは随分後になって知りました。

結婚後は、夫の親が経営する建設会社に移り、子育てをしながら、夜中に図面を書いては、リフォームなどの小さな工事に携わり、日々を送っておりましたが、ある時民家を守る NPO 団体を立ち上げるお誘いを受けました。

早速参加しましたが、それは現在の特定非営利活動法人（認定 NPO）日本民家再生協会です。

その活動が認められ、次には郡山市文化財保護審議委員をお引き受けすることになり、10 年勤めました。建築だけでなく他の分野の専門家の方々との審議の中で、私が何も困ることなく勤め上げることができたのは、広瀬先生のご指導のおかげと大いに感謝したのはこの時でした。

そして、2011 年 3 月に東日本大震災が起こりました。郡山市は震度 6 弱でした。その時私は、会社のショールームにいました。お客様が誰もいらっしゃらなかったのが幸いで、直ちに被害状況を画像で記録し、被害を確認したら、女性スタッフは帰宅、しばらくは自宅待機となりました。街は大きな被害を受け、なお断続的に揺れ続けました。

私の方は、翌日には、国の重要文化財である「旧福島県尋常中学校本館」から連絡があり、早速現場に向かいました。文化財ですから、修復に向けての手続きや、注意点など、管理スタッフの方と確認したり、教育委員会に出向いて説明したり、応急処置等すべきことはたくさんありました。会社の方には、それぞれのお客様の住宅、店舗、工場など、電話不通ながらもいっぺんに連絡がきました。さらに、県の重要文化財「開成館」の修復工事も、声をかけていただきました。

私が担当させていただいたいくつかの古民家のお客様のところは、ほとんど被害はなく、皆さんもご無事でホッとしました。

やがて、神戸の震災後に始まったヘリテージマネージャー育成講座が福島県でも始まりました。私も、講師を務めながら、一期生としても受講をしました。

気がつけば、若い頃に漠然と憧れた古建築に近いところに関わって仕事をしておりました。嬉しくもあり、またありがたくもありと感じています。

昨年から新しい事務所に移りました。仕事内容は今までとあまり変わらないのですが、ライフスタイルを重視するという視点から、企画設計施工と一環で色々なご提案をさせていただく方向に向かおうと思っています。

（ラボット・プランナー）

SUPERIOR COURT OF CALIFORNIA

Solano Biotechnology+Science Bldg

三宅博子 (S62 卒)

■file-91　デザインは国境をこえて

MIYAKE Hiroko（旧姓：冨永）
1987 年　武蔵工業大学建築学科卒業
　　（大須賀研究室）
1990 年　東京芸術大学建築学部大学院修了
　　（藤木研究室）
1990 年　丹下健三都市建築研究所入社
1994 年　渡米　ロスアンジェルスの事務所勤務
1998 年　SMITHGROUP サンフランシスコ支社
　　サイエンス＆テクノロジースタジオ所属
　　プリンシパルデザイナー

小学生の頃、岐阜の白川郷民家の機能的なデザインと村全体としての美しさに感動して建築を志し、大学院卒業後は、丹下健三都市建築研究所のアーバンデザインチームに所属。イタリア、フランスの都市計画、日本の美術館やホテルなど様々なデザインをする機会を得て、約 5 年程丹下先生の下で、建築家としてのデザイン哲学を学び、「デザインに上下関係はなく、若いデザイナーのアイデアに熱心に耳を傾け常に新しい何かを追及しつつも、突飛なものでなく、オーソドックスで勝負しなさい」という言葉など、その後の私の設計活動の礎を得ました。

同期生の主人の転勤で渡米し、現在大手設計事務所 Smith Group のサンフランシスコ支社の研究施設スタジオのデザインリーダーとして 20 年目となります。

日本にいる時は自分の文化のアイデンティティーなど、考えることもなかったですが、人種のるつぼのアメリカにいると、それぞれの文化習慣を大事に守り尊重し共生していく土壌があり、自分のデザインのルーツやなぜこんな風に考えるんだろうというシンプルな疑問を自分に問いかける機会が多くなり、日本の文化、美意識など、日本人としての誇りを意識するようになりました。

日米の仕事環境は共にデザインに特化し、デザインは言葉を超えていくもので幸いでした。またライフバランスを大事にするので、家庭と仕事の両立環境が整っていて、アメリカでは重要ポストに多くの女性がついています。

私の設計作品は多岐にわたり、カリフォルニア州の裁判所、アラスカ大学のバイオサイエンス施設、ゲノム研究最高峰の国立研究所、大学のステム教育施設、退役軍人の為のトラウマリハビリセンターのフラッグシップ、四百床の退役軍人用の特養介護施設など、全米と州レベルのアメリカ建築協会のデザイン賞を幾つも戴き、最近では、サステナブルだけでなく、ウェルネスを評価した建築を賞する傾向があり、私の作品もそのケーススタディーとして発表されています。デザインで大事なビジョンとコンセプトの設定に一番苦労するところですが、そのアイディアをいかに統一された形でデザインしきれるかが、作品としての質の違いだと思います。

エクステリア、インテリア、ファーニチャーまたランドスケープに至るまで、ストーリーのあるデザインを目指し、オーケストラの指揮者のように多くの専門家を束ねて、デザインをまとめています。これからもデザイン力を磨いて、いつかまた日本でも仕事ができるのを楽しみにそれまで米国で頑張っていきたいと思います。

（SMITH GROUP）

■file-92　ファシリティマネジメントの仕事
～快適な環境を提供するために～

澤口香織 (H20 卒)

SAWAGUCHI Kaori（旧姓：坂本）
2008 年　武蔵工業大学建築学科卒業 (勝又研究室)
2008 年　東京海上日動ファシリティーズ　入社
　　首都圏営業第 2 部（東京）　配属
2011 年　静岡支店　配属
2013 年　センター営業部（東京）　配属

大学の講義を通じ“ファシリティマネジメント”に興味を持った為、就職活動ではメーカーや不動産の他に建物の維持管理を主体業務としているビルメン業界も視野に入れました。選考を通し事業内容はもちろんですが企業風土なども気に入り東京海上日動ファシリティーズに入社を決めました。

最初の配属先は東京、千葉、神奈川エリアにあるグループ会社所有物件のファシリティマネジメント業務 (以下、ＦＭ業務とする) に従事しました。ＦＭ業務は多岐にわたり、ビルメンテナンス、入居テナントや施設利用者への窓口業務、設備等のトラブル対応、協力会社のマネジメントなどの日常業務、これらを踏まえた上でのオーナー視点に立った管理運営計画や中長期修繕計画の提案、各種関連法令に係る届出などを行います。また、各専門部門と連係しながら修繕工事の設計監理、オフィス移転、物件売却なども経験しました。右も左も分からない状態から目の前の課題を一つ一つクリアしていくうちにあっという間に 3 年が過ぎ、2011 年に静岡支店へ転勤となりました。これまで経験した業務に加え、今まで専門部門に協力を仰いでいた修繕工事やオフィス移転なども主体業務となりました。オフィス移転の仕事はプランニング、予算策定、工事・移転計画、現場管理、原状回復工事などのメイン業務からオフィス清掃や消防計画の届出代行などのビル管理業務まで一括して対応します。オフィス移転は組織変更や賃料を抑えたいなど会社の方針で決まりますが、実際に移転する従業員の方は納得されていないように見受けられ、板挟みになる局面があり苦労しました。しかしながら、全体を把握し各方面と調整しハンドリングしていく部分にやりがいを感じました。私生活面では静岡で初めての一人暮らしとなりましたが、職場の方が何かと気にかけてくださり、公私共に充実した時間を過ごす事ができました。その後東京に戻り、大規模ビルの管理事務所に常駐し、常駐ビルのＦＭ業務や館内運用に携わることになりました。

2016 年に出産し、育休取得後に復帰し、現在は第二子の育休中です。学生時代には子育てしながら働くことなど想像もしていませんでしたが、幸い会社グループ全体では子育てしながら働く女性が多く励みになっています。

この 4 月から再び職場に復帰しますが、子育てしながらも会社に貢献できるように頑張りたいと思います。

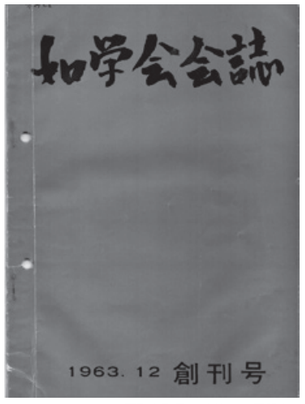
（東京海上日動ファシリティーズ）

「如学会」の由来

ー 如学会の成り立ちと名称の命名者を発見 ー

阿部　寧　（S38 卒／ NPO 法人 建築・街づくり支援センター）

創刊号（1936 年・写真 1）



再刊創刊号（1963 年・写真 2）

「如学会」という名称の誕生した経緯が判った。如学会誌第 1 巻第 1 号（昭和 11 年／ 1936 年 7 月全 68 頁・写真 1）発行の内容は、寄稿文、論説、消息、報告、会則、編輯後記から成っている。そこで蔵田周忠教授（如学会第四代会長）の名はすでに登場し、会の牽引役として活動されている。編輯兼発行人は如学会会長佐々木孝之助氏で 1 号から 3 号が発行された。2 号昭和 13 年 2 月（全 82 頁）、3 号 13 年 9 月（全 28 頁）、4 号 15 年 6 月（全 34 頁）、5 号 16 年（全 36 頁、月日不明）は、編輯兼発行人蔵田周忠の名が明記されている。

その後、1963 年 12 月に再刊創刊号（B5 判・写真 2）が発行された。実はそのなかで蔵田先生が巻頭の辞に『建築科如学会について思うことあれこれ』を記していた。そこに小生が気になっていた「如学会」発祥の由来が記されていた。誤解を招かないため少し長くなるがその記事を原文のまま紹介したい。

“如学会という名の出典は孔子様の「論語」から出ている。明治、大正時代の先輩の最も尊敬し愛読された中国の古典の中で、古代中国の聖人孔子様は今もなお人々に愛誦される立派な多くの語句をのこされた。その語録の一つが「論語」として今日もなお語りつがれていることは誰も知る通りである。

明治、大正頃は何かまとまった言葉となると、この「論語」がもち出されて、その中の聖句「子曰」（しのたまわく･･･）とはじまって一句をなす形が、しばしば使われた。われわれの前身武蔵高工の創立当時 ･･･ 昭和の 4 年であった ･･･ 当時みんな新生の意気で緊張していた。先生も学生も一団となって、親しい一団を形成していた。苦労を分ちあい、笑うもしゃべるも一致して行動していた。

電・建・土と三科の高等工科学校という各種学校であったので、各クラスはおのおのクラブ会を造った。今日言う学生会なのであるが、学生のクラス会であって時々鯛焼とかせんべいなどを買ってきて、講義をきくのと同じ机の上で茶話会が始まった。話の内容は主としてその時々の事柄が多く、どこそこでこんなことがあったから、我々もぼんやりしていてはいけない、というように互いに励ましあい、考え方を討論しあうというようなことも多かった。耳の早い、注意深い者はいろいろな情報を聞いてきて皆に伝えていた。室の掃除など誰が言うともなくひとりでに行動が一致した。その頃の建築史の先生はづっと上野の東京美術学校（今日の東京芸術大学）におられた工学博士大沢三之助先生であった。･･･ 今思出してみても、大沢先生は私共が最も尊敬する教授のお一人で、頭髪はかなり白くなっていられたように思うが、割腹の義をされた印象が忘れられない。

講義中黒板に、詳細図を描いてみせつつ、丁寧に説明して下さったので有るが、実に常にプロポーションが正確で丁寧であった。講義がすんでから消すのがおしくてもったいないと思うことも度々で有った。その温厚な大沢三之助先生を先輩連は集まりの中心にして、わざわざ先生にお願いしてクラス会の会長になっていただき、ここで如学会と銘名していただいたのであった。如学会はだから元来クラスの親睦の会で有り、お互いの自己を磨く研さんの会であったので有る。

如学会となったわけは、大沢先生が、つけられたのであるが意味は前記の様に、論語の中に ･･･ ある時孔子様が寝ても起きても、又食事をしても、恐らく今の人の言、「人生如何に生くべきか？」を考えつづけておられた処、結局、私は学ぶことだ。「学ぶに如かざるなり」と悟ったんだと、いわれた。だから学生たるもの、すべからく常に怠ることなく「学ぶにしかず」と大沢先生が如学会の先輩に教えられたのだというわけである。”（以上原文のとおり）

さらに、蔵田先生の解説は続くが、一応、如学会の生れた事情が分ったのでこの辺で引用は終わらせたい。最後に蔵田先生の締めくくりの言葉を付言しておこう。

“如学会は、大沢先生にその名をつけていただいた頃の、純真な青年の集まりとして、いつまでも、先輩の学生の、言わばたての連絡を強め、伝説を守って、お互いに語り合い、励ましあって「学ぶに如 (し) かじ」の魂を育ててゆきたいものである。”

1963 年には当時会長の横山貞夫氏が会報に期待したのは、教授陣と学生、卒業生との大いなる交流の機関としての発展であった。その点からすると、これまでの如学会は卒業生に比重が傾いていたようだが、近年、学生との交流もかなり高まっている様子が見えている。

追悼　中園正樹氏

松田平田設計　最高顧問
前・代表取締役社長

山口裕照（H10 卒／日刊建設工業新聞社）

横浜国際総合競技場（写真 1）

東京国際空港（羽田）第 2 旅客ターミナル（写真 2）

昨年 12 月 25 日、松田平田設計の最高顧問・前代表取締役社長の中園正樹氏（S39 卒）が鬼籍に入った。享年 76 歳。「とにかく格好いい先輩だった」と新居千秋氏（S46 卒）が振り返るように、建築にとどまらずファッションなどに対しても美意識が高く、存在感やキャラクターが際だつ不世出の建築家だった。

1942 年兵庫県生まれ。1964 年に本学工学部建築学科を卒業し、松田平田設計事務所（現・松田平田設計）に入社した。取締役建築設計部長、常務取締役を経て、1995 年に代表取締役社長に就任。身の丈に合った経営を貫き通し、社会の変化に対応できる組織づくりに心血を注いだ。2018 年 12 月 6 日付で最高顧問に就き、後進に将来を託した。

松田軍平、平田重雄両氏の顔を見た最後の世代として、「建築に対する理念と情熱、職能倫理を常に堅持し誠実・公正な設計を行う」という創業者の精神であり原点を自ら実践。提案力と設計力を発揮し、横浜国際総合競技場（写真 1）や東京国際空港（羽田）第 2 旅客ターミナルビル（写真 2）など秀作を残した。日本建築学会賞や建築業協会賞（BCS 賞）など多くの賞も受けた。

2 月 26 日。東京・南青山の東京都青山葬儀所で「お別れの会」がしめやかに執り行われた。本学同窓生をはじめ建築界などから約 1,100 人が参列。遺影に献花し、別れを惜しんだ。

会場には、設計を手掛けた建築物の写真などが飾られたほか、愛用したスポーツカー・フェラーリも置かれた。参列者はそれらを見ながら故人を偲んだ。

【時代の流れを読む建築家】

〈優良な社会資産を「美しい」というもので包みたい〉〈人にも環境にも「優しい」建築をつくりたい〉。昨年 12 月 25 日に亡くなった建築家の中園正樹氏（松田平田設計最高顧問・前社長）の言葉である▼若いころに手掛けた玉川高島屋をはじめ、横浜国際総合競技場や東京国際空港（羽田）第 2 旅客ターミナルビルなど多くの秀作を設計。建築に対する理念と情熱、独特の語り口で多くの人を魅了した▼中園氏を語る時こうした建築家としての業績に目がいきがちだが、堅実なかじ取りをする経営者でもあった。社長就任はバブル崩壊後の 1995 年 9 月。先が見えず、景気が後退する激動の時代を身の丈に合った経営に徹し、昨年 12 月 6 日付で最高顧問に就くまでの約四半世紀、組織設計事務所の安定経営に心を砕き続けた▼環境が変化する中、現状を維持することは極めて難しい。毎年お願いしていたインタビューの際、「松田平田設計はいつもと変わらない 1 年だったよ」と笑顔で語る姿がまぶたの裏に焼き付いている▼優れた提案力や設計力だけでなく、時代の流れを的確に読む力に秀でた建築家であり経営者だった。今も「明日からさらにいい建築をつくろう」と、空から後進に厳しくも温かいまなざしを向けているはずだ。合掌。

【代表作品】

▽ 1967 年　大正海上火災玉川学園研修所およびクラブハウス
▽ 1978 年　安田生命目白事務センター：建築業協会賞（BCS 賞）
▽ 1999 年　横浜国際総合競技場：日本建築学会賞・業績部門、建築業協会賞（BCS 賞）　他
▽ 2004 年　サンポート高松シンボルタワー：公共建築賞優秀賞、高松市都市景観賞　他
▽ 2004 年　東京国際空港（羽田）第 2 旅客ターミナルビル：グッドデザイン賞　他
▽ 2005 年　銀座三井ビルディング：日本建築家協会優秀建築 200 選
▽ 2005 年　TJK 箱根の森：神奈川県建築コンクール優秀賞、日本建築家協会優秀建築 200 選
▽ 2007 年　東京競馬場：建築業協会賞（BCS 賞）
▽ 2007 年　日本銀行那覇支店
▽ 2010 年　仙台トラストタワー：仙台街中グッドデザイン展デザインウィーク大賞
▽ 2013 年　日本銀行釧路支店
▽ 2014 年　四万十町本庁舎：日経ニューオフィス推進賞、四国経済産業局長賞、ＪＩＡ環境建築賞
▽ 2018 年　モノレール旭橋駅周辺地区第一種市街地再開発事業（カフーナ旭橋）

表彰　蔵田賞・如学会賞及び各賞

如学会では、建築学科卒業研究の顕彰として「蔵田賞」（卒業設計最優秀賞）と「如学会賞」（卒業論文最優秀賞）を授与しています。
建築学科教室の協議の結果、2018 年度「蔵田賞」に木村晟洋君（手塚研究室）、「如学会賞」に三堀敦也君（勝又研究室）が選出され、2019 年 3 月 19 日の学位授与式にて山岡嘉彌会長から記念品が贈呈されました。

■蔵田奨学基金賞
木村　晟洋（手塚研究室）

■如学会賞
三堀　敦也（勝又研究室）

■卒業設計優秀賞
2019 年 2 月 8 日・13 日に卒業設計講評会が行われました。8 日は学内講評として計画・意匠系の専任教員および学部設計演習の講師陣を審査員に、13 日は学外講評として千葉学氏（東京大学教授）、原田雄次氏（横浜国立大学助教）を審査員にお迎えし、審査の結果、下記の通りに個人賞が表彰されました。また、下記６名が卒業設計優秀賞として建築学科教室から表彰されました。

・卒業設計優秀賞
工藤　浩平　（手塚研究室）　髙橋　里菜　（堀場研究室）
長幡　遥佳　（堀場研究室）　西宮　航平　（福島研究室）
藤塚　雅大　（福島研究室）　李　紫菱　（福島研究室）

・個人賞　※当日会場にて表彰
木村　晟洋　（手塚研究室）　原田雄次賞　伊藤　暁賞　能作淳平賞
柏木穂波賞　松井　亮賞　小栗幹雄賞
佐々木健賞
工藤　浩平　（手塚研究室）　新居千秋賞　羽鳥達也賞　石井立樹賞
李　紫菱　（福島研究室）　伊藤博之賞　杉本拓海賞
藤塚　雅大　（福島研究室）　千葉　学賞

■卒業論文優秀賞
2019 年 2 月 9 日に卒業論文発表会が行われ、建築学科教室から下記の 11 名が卒業論文優秀賞として表彰されました。

石川　勝登　（天野研究室）　森田　逸斗　（山口研究室）
片岡　修平　（岩下研究室）　淵田　春奈　（小林研究室）
福岡　悠斗　（近藤研究室）　澤　侑弥　（大村研究室）
北村　莉菜　（焦研究室）　阿部雄司郎　（西村研究室）
田中　肇　（大橋研究室）　首藤　啓志　（小見研究室）
石関　佑哉　（佐藤研究室）

■修士設計優秀賞
2019 年 2 月 13 日に修士設計講評会が行われました。学外審査員に千葉学氏（東京大学教授）、原田雄次氏（横浜国立大学助教）新居千秋氏（東京都市大学客員教授）をお迎えし、審査の結果、以下の通りに審査員から個人賞が表彰されました。また、建築学科教室から以下の１名が修士設計優秀賞として表彰されました。

・修士設計優秀賞
石井　奨人　（福島研究室）　岡田希久枝　（手塚研究室）
加藤　洲　（手塚研究室）

・個人賞
加藤　洲　（手塚研究室）　千葉　学賞　原田雄次賞
岡田希久枝　（手塚研究室）　新居千秋賞

■修士論文優秀賞
2019 年 2 月 12 日に修士論文発表会が行われ、建築学科教室から下記の３名が修士論文優秀賞として表彰されました。

城所友莉奈　（勝又研究室）　梶ヶ谷恭輔　（岩下研究室）
小林　正純　（大村研究室）

2018 年度　卒業論文・修士論文　標題一覧

卒業論文

天野研究室（計画系）
石川　勝登　我孫子ビレジにおける若年層の入居促進に関する研究
川瀬まり子　大田区の空き家活用事業における転用活用の実態と課題
関根　崚　郊外団地型マンションにおける空き住戸の実態調査に関する研究
田中　諒　我孫子ビレジにおける親族による居住継承に関する研究
辻井　慧史　我孫子ビレジにおける管理組合集会室の利用実態に関する研究
成井　愛理　郊外団地型マンションの空き住戸発生要因に関する研究 – 我孫子ビレジを対象として –
宮崎　秀哉　我孫子ビレジにおける近隣センター・コミュニティホールの利用実態に関する研究
森　慎之介　高島平団地サ高住棟居住者の日常生活実態に関する研究

勝又研究室（計画系）
阿佐南帆子　公立文化ホールにおける改修実態に関する研究 – ヒアリング調査による公立文化ホールを長期使用するための方策機構に関する研究 –
江元　純平　認知症高齢者グループホームにおける壁面掲示物の掲示傾向と壁面選択に関する研究
小沼　真人　個室を持つ従来型特別養護老人ホームでの共用部の使われ方に関する研究
辻　采奈　全国社殿の構成と維持保全の実態に関する研究 – 東北地方・関東地方・中部地方を対象として –
永井　響子　平床利用が可能な移動観覧席を持たないホールの実態調査　– 公立文化ホールを長期使用するための方策構築に関する研究 –
三堀　敦也　寺院本堂の維持保全と持続可能性に関する研究 – 国指定文化財を除く全国の寺院本堂を対象として –
矢崎　雄大　特別養護老人ホームにおける個室に関する研究
渡邊　誠也　歴史的建造物の維持保全と持続可能性に関する研究 – 重要伝統的建造物群保存地区を対象として –

堀場研究室（計画系）
髙橋　里菜　公立文化ホールの活性化に関する研究 – 公立文化ホールを長期利用するための方策機構に関する研究 –

山口研究室（計画系）
奥崎晋之介　政令指定都市における公立小学校のオープン型教室の整備状況とその変遷に関する研究
笹原　優也　国公立中学校における教科教室制の実施状況と校舎の利用実態・評価に関する研究
島田　南美　雑誌掲載事例からみた小学校における多目的スペースの空間構成及びその変化に関する研究 – 多目的スペース導入から現在まで –
森田　逸斗　秋田県の公立小・中学校におけるスクールバス等の通学環境と課題に関する研究

岩下研究室（環境系）
片岡　修平　小中学校の冷房導入と熱中症リスクの関係性に関する研究
古宮　和希　加算作業の難易度と二酸化炭素呼出量に関する研究
清水　岬　喫煙由来の粒径別微粒子がオフィス空気環境に与える影響に関する実測研究
須藤　怜　図形認知作業負荷が人体の二酸化炭素呼出量に与える影響に関する研究
辻本　裕也　教室内空気質指標 ICONE の有効性に関する基礎的研究
冨田　喬　オフィス空間における粉塵相空気質及び外気由来の室内への影響に関する実測研究
堀越　光貴　騒音による二位加算作業と人体の CO_2 呼出量に関する研究
山田　沙綾　記憶課題の精神作業負荷の違いによる二酸化炭素呼出量の測定に関する研究

小林研究室（環境系）
佐田尾健司　照明配置による歩行者の視線誘導に関する試行実験
吉田　有里　山形県金山町における住宅への照明を主体とした夜間景観形成
遠藤　駿太　山形県金山町の長期的な照明設置を見据えた景観と観光と住民協同の推進
尾形　嘉子　暗渠化された川と街の移り変わりを表す桜ライトアップ
木村瀬里那　気まずさが生じる空間の特徴と緩和方法の検討
近藤奈々美　視覚と内容物の情報を制限した暗闇での飲料の味覚の現れ方
平塚　知世　顔見知りの異性への接近しやすさに関する研究
淵田　春奈　高品質マンション共用部における超低色温度照明への改修
前田　悠花　暗渠化された川と街の移り変わりを表す桜ライトアップ

近藤研究室（環境系）
草間　康友　Iot を利用した単身世帯の就寝時の快適性と省エネ性能向上に関する検討
福岡　悠斗　高温発熱機器からの放射熱量の簡易測定法と現場測定法に関する研究
鈴木　睦大　自然通風と放射冷房のハイブリット涼房に関する CFD 解析
髙橋　祐貴　非密集市街地と密集市街地の屋内駐車場内の自然換気性状に関する CFD 解析
田中　優汰　冷凍倉庫モデルにおける片寄二重エアカーテンの有効性に関する CFD 解析
松島みなみ　実験室モデルを対象とした二重エアカーテンの CFD 解析

大村研究室（構造系）
黒澤　航　先打ち部を処理したコンクリートの打重ね面の圧縮強度とせん断強度
梶原　僚太　高軸力下での RC 壁の終局時変形性能に関する研究
佐伯　拓海　打重ね部を有するコンクリートのせん断強度及び非破壊試験による打重ね部の検出
澤　侑弥　RC 造壁要素の圧縮破壊エネルギーに関する基礎実験
福田　直大　先打ち部を処理したコンクリートの打重ね面の圧縮強度とせん断強度
千野　舜介　熊本地震による RC 造大学校舎の被害に関する考察
成瀬　俊佑　鋼管杭のパイルキャップのへりあきに関する耐力評価式
松藤　洋明　打重ね部を有するコンクリートのせん断強度及び非破壊試験による打重ね部の検出

焦研究室（構造系）
大家　和也　一面せん断平板割込み接合部を有する鋼管ブレースの繰り返し載荷実験
鹿島智亜希　歪振幅に着目した鋼構造柱梁接合部の塑性変形能力評価
北村　莉菜　一面せん断平板割込み接合部を有する鋼管ブレースの繰り返し載荷実験
近野　裕樹　歪振幅に着目した鋼構造柱梁接合部の塑性変形能力評価

西村研究室（構造系）
阿部雄司郎　高減衰制震構造システムの振動台実験の考察
荒井　貴文　アクティブ型動吸振器を応用した波力発電の研究
佐藤　泰良　高減衰制震構造システムの振動台実験の考察
裴　舜　P- δ効果と非線形座屈荷重の関係
早川　和正　高減衰・制振構造システム用積層ゴム部材の研究開発
堀内　謙　アクティブ型動吸振器を応用した波力発電の研究
山口　抄樹　高減衰・制振構造システム用積層ゴム部材の研究開発

大橋研究室（材工系）
大西　美帆　木材の三角形めり込み挙動に関する研究
釜本理佳子　N 値計算の精度に関する研究 – 静的実験と N 値計算の比較 –
川井　優子　伝統建物の設計法の作成 – 接合部要素の基準値・板壁の代表値作成 –
小池　孝弥　我が国の木造軸組構法の変遷に関する調査研究 – 関東圏における構法調査 –
田中　肇　小規模軸組構造の微動分析　– 連続壁と剛性の関係 –
花上　真　丸太組構法分析その３　– ログハウスの振動台実験 –
春山　智基　伝統的木造建築の水平耐力の推定に関する研究 – 限界耐力計算を用いた設計例の作成 –
井田　光城　木造軸組構法住宅の耐震診断法に関する研究 – 被災度の再検討 –

小見研究室（材工系）
池之座隼斗　GOOD DESIGN 賞に見るリノベーション受賞対象の分析及び『リノベーションに関する取り組み事例』の実態調査
上沢　涼介　港北ニュータウンにおける荏田南近隣センター商店街の現状分析
木戸菜穂子　SH-60 の構法分析及び BIM モデル化
佐久間大樹　『神社社殿 (本殿 , 拝殿) の構法と維持保全の実態』 – 東北・関東・中部地方の神社を対象として –
柴田　拓也　防災ゲームアプリによる津波避難経路の学習効果に関する研究
首藤　啓志　小屋建築の類型化とトレーラーハウスの実態に関する調査研究
玉利　瑞希　SH-1 増築部に関する研究
増田　侑弥　防災ゲームアプリによる津波避難経路の学習効果に関する研究

佐藤研究室（材工系）
阿部　大輝　高温履歴を受けるセメント硬化体の水和物と強度発現特性に関する研究
石関　佑哉　粉末 X 線回析 / リートベルト法を用いたセメント水和反応解析に関する基礎的研究
小笠原直哉　経年した鉄筋コンクリート造建築物の水和物構造の実態調査
松浦大二郎　高温履歴を受けるセメント硬化体の微細構造と力学的性質に関する研究
山下　桜壱　築 50 年以上経過した鉄筋コンクリート造建築物の劣化状況調査

修士論文

天野研究室（計画系）
黒﨑　直也　鉄道駅を中心とする地域施設配置に関する研究 – 年齢別・職業別の地域施設利用実態及び住民意識を元に –

勝又研究室（計画系）
城所友莉奈　公立文化ホールにおける改修実態に関する研究
小原あかり　平床利用が可能なホールの利用実態に関する研究
齊藤　直也　公立文化ホールの閉館の要因に関する研究
玉井　宏典　公立文化ホールの活性化に関する研究

福島研究室（計画系）
鈴木　尚道　中世仏道のもつ内部空間の発展可能性
山田　一平　建築における日本的なるもの – 和風建築のルールとパラメータ –

岩下研究室（環境系）
梶ヶ谷恭輔　精神作業負荷が人体の二酸化炭素呼出量に与える影響に関する研究

近藤研究室（環境系）
飯田　恵美　空調・換気効率向上に寄与する二重エアカーテンに関する CFD 解析

西村研究室（構造系）
江里口知輝　再生可能エネルギーとしての波動発電の可能性
庄司　夏海　中心圧縮軸力を受ける鋼材の非線形座屈に関する実験的研究
宗形　武弥　高減衰制振構造システムの振動台実験による検証

大村研究室（構造系）
小林　正純　軍艦島における建築群の変化検知のための振動・画像センシング
トウカショウ　RC 造壁の破壊エネルギーに関する評価

2018 年度　卒業設計・修士設計

卒業設計　学内講評会 2019 年 2 月 8 日学外講評会 2018 年 2 月 13 日

手塚研究室（計画系）

池田　勇輝　THE COFFEE ①
石川　朔巳　縁湯 ②
木村　晟洋　奇人思想空間　– 50 の粘菌実験から読み解く南方熊楠の思想空間 – ③
工藤　浩平　State of the Village Report ④
関　琴海　神ノ嵜海に架ける舞台 ⑤
中山　智華　積層商店街　– 自由が丘デパートから街へ – ⑥
山田倫太郎　縁湯 ⑦
米盛　裕美　ORIGAMI　– 紙が生む空間 – ⑧

福島研究室（計画系）

麻生　晴真　浅草皮革工房 ⑨
佐藤　瞳　積層する体育館 ⑩
澤田真由美　建築歴史博物館 ⑪
西宮　航平　集合住宅 20XX 監獄あるいはユートピア ⑫
藤塚　雅大　谷戸の礎 ⑬
松本　遼　街路のある小学校クラスター配置から生まれる共有空間 ⑭
山本　航平　人工と自然の調和　– 都市生活者のための非日常余暇空間 – ⑮
李　紫菱　ROJAK ⑯

堀場研究室（計画系）

臼井　宏樹　積層された記憶の解体　– 増減築による高架下美術館の提案 – ⑰
千田　邦衛　ここから見えるもの　– 長瀞の地形から訓み解く段差建築 – ⑱
髙橋　里菜　都市の隙間に舞台を ⑲
照井　萌水　祝祭と住まうマチ ⑳
長幡　遥佳　大山一路 ㉑
南塲　翔太　湾岸地区豊洲新ターミナル　– 次世代モビリティを中心とした新ターミナル – ㉒

修士設計講評会 2018 年 2 月 15 日

手塚研究室（計画系）

染谷　玲生　新島における街並み保全と空き家再生 ㉓
藤田　海斗　豪雪地における雪と建築の関係性の研究 ㉔
大内　渉　渋谷におけるリニアな複合型公園に関する研究 ㉕
岡田希久枝　茶産業における建築的要素と文化に関する研究 ㉖
岡本　啓吾　プレイフルラーニングに基づいた小学校の提案 ㉗
加藤　洲　アーキグラムを題材とした取り残された建築の考察 ㉘
熊谷新太郎　地域に開いた学校の建築計画に関する研究 ㉙
椎谷　幸太　パタンランゲージを用いたプアワー力のための集合住宅の考察 ㉚
数藤　朱梨　東京の住居地域とスーパーマーケットの関係に関する研究 ㉛
前芝　優也　木造密集エリア雑司ヶ谷における更新の手法論 ㉜
目黒　周作　都市の中の監獄の考察　– 市民は共生できるのか – ㉝

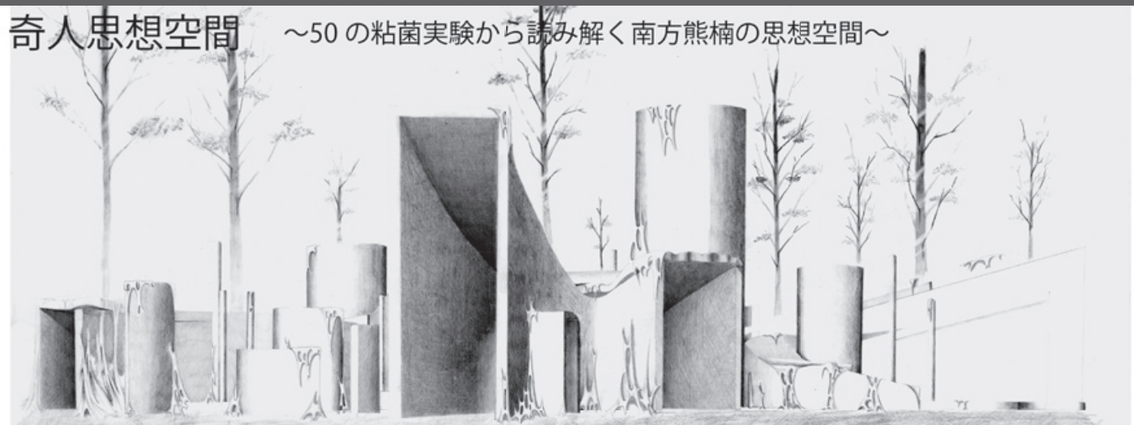
福島研究室（計画系）

石井　奨人　都市体験から構築する設計手法の研究 ㉞
石河莉夏子　時間の設計による建築の透明性の再考 ㉟
小川　陵祐　都市における半屋外空間による居住空間の再定義 ㊱
長瀬　ゆい　光による空間演出の多様性の考察 ㊲

堀場研究室（計画系）

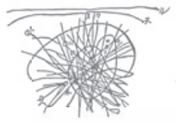
市岡　拓真　荒木町の遺伝子 ㊳
井上　大裕　地区センターの新たな形態 ㊴
川島　俊哲　東京都市大学世田谷キャンパスにおける今後のキャンパス計画について ㊵

奇人思想空間　～50 の粘菌実験から読み解く南方熊楠の思想空間～



私は「奇人」南方熊楠の子孫である。南方熊楠は、和歌山県が生んだ博物学の奇人である。東京大学中退後、19 歳から約 14 年間、アメリカ、イギリスなどへ海外遊学し、その後和歌山の那智に 3 年間定住していたと言われている。3 年の那智時代に熊楠は粘菌からあらゆる思想が構築された。「奇人」熊楠に自ら近づき知ってもらうために、私は「建築家」として粘菌を研究し、南方熊楠の思想空間を設計する。

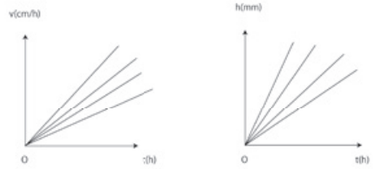
南方熊楠



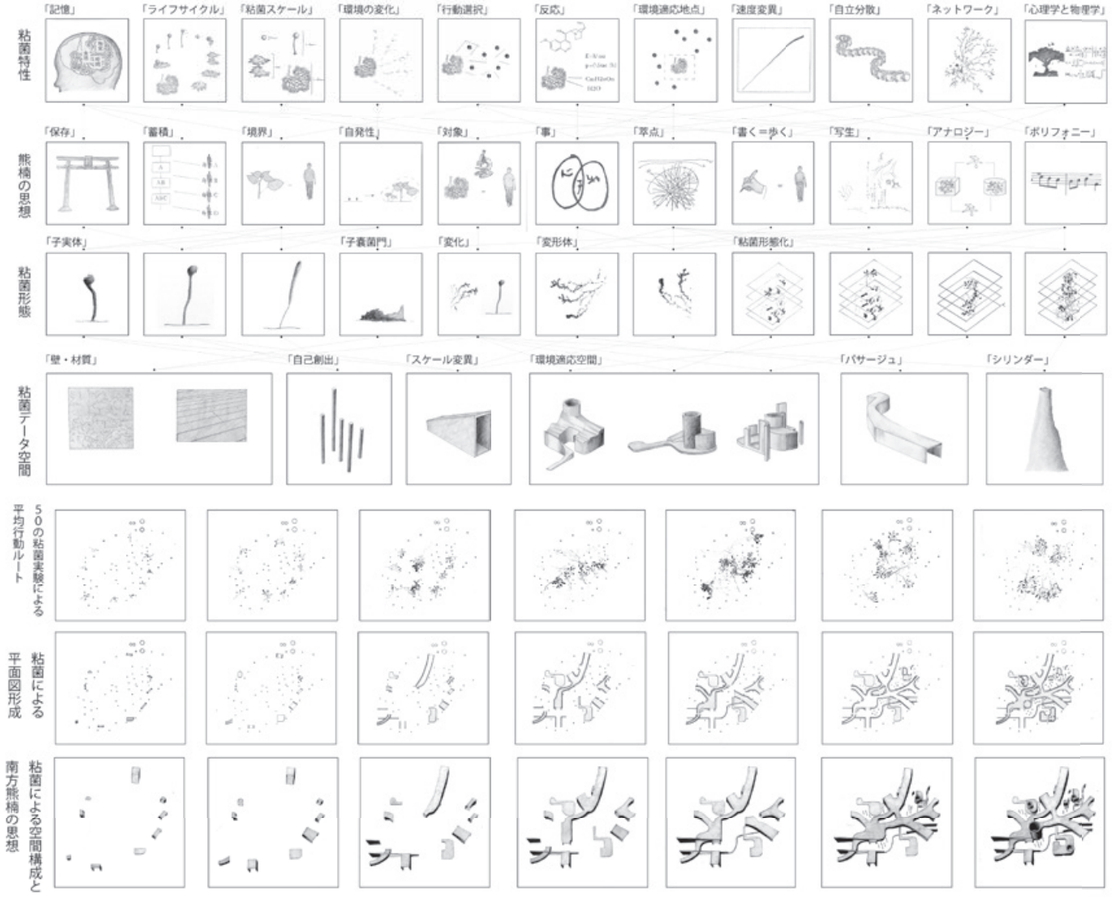
南方曼荼羅

粘菌写生

南方熊楠は粘菌と同じ視点に立って、研究する思想があり、常に粘菌と同じスケールに立っていた。



変形体のエリア速度、子実体変位を算出し、空間化する。



人と粘菌はスケールが 500 倍違うことから、敷地模型 1/500 に粘菌を置くことにより南方熊楠と同じ視点に立ったことになり、既存敷地内での南方熊楠の行動、研究姿勢を擬似体験できる。

寺院本堂の維持保全と持続可能性に関する研究

－国指定文化財を除く全国の寺院本堂を対象として－

1 研究目的

寺院本堂を長期利用するためには定期的な維持保全が欠かせず、古くから維持保全された本堂は地域の伝統技能者の修理によって維持されてきたと推測される。しかし、人口減少の影響で寺院や檀信徒が減り、堂宮大工を始めとする伝統技能者が減少し、かつての材料が使えない、または本堂の修理や技術継承ができない地域があると考えられる。そこで、寺院の立地や細部意匠等の変遷と合わせて、木造本堂のような伝統建築を地域で支える伝統技能者の実態を明らかにする。これにより、国指定文化財を除く全国の一般の寺院本堂の維持保全の課題と合わせて、持続的な維持保全への可能性を示すことを本研究の目的とする。

2 研究方法

2.1 研究対象

全国の寺院から国宝・重要文化財に指定または新興宗教の寺院を除外した 74,896 件のうち、無作為抽出した 17,574 件の寺院を対象に 2007 年から 6 年間で基本調査を行い、2,661 件の回答を得た。本研究では基本調査において追加調査に協力可能とされた 2,131 件の寺院本堂を対象に補足調査を行った (表 1)。

表 1　調査対象数

	寺院総数	基本調査		補足調査		
		郵送寺院	有効回答	郵送寺院	回答数	有効回答
全国	76,849	17,574	2,661(15%)	2,131	665	661(31.0%)
北海道	2,481	732	107(15%)	83	24	24(28.9%)
東北地方	5,703	1,656	325(20%)	254	85	85(33.5%)
関東地方	10,325	2,556	356(14%)	287	98	98(34.1%)
東京都	2,974	1,851	418(23%)	336	86	86(25.6%)
中部地方	22,067	4,363	597(14%)	475	151	150(31.6%)
近畿地方	16,338	3,169	519(16%)	435	135	135(31.0%)
中国地方	6,511	1,255	141(11%)	104	37	37(35.6%)
四国地方	2,946	564	69(12%)	56	16	16(28.6%)
九州地方	7,504	1,428	129(9%)	101	30	30(29.7%)

調査の結果、665 件の回答を得た。このうち、4 件の不明を除外し、661 件を有効回答とした。

2.2 研究方法

本研究ではこれまでに行った基本調査や補足調査の結果をもとに、寺院の一般事項に加え、本堂の細部意匠の竣工時と現在での比較を行った。また、寺院周辺の技能者や現本堂の維持保全の実態等を地方別に明らかにした (表 2)。

表 2　アンケート項目

	補足調査
A. 一般事項	寺院名称 , 住所 , 回答者 , 寺院周辺 の地域と立地
B. 現本堂の外観意匠 (竣工時と現在)	柱間装置 , 屋根葺材 , 仕上材変更の理由
C. 現本堂の細部意匠等	柱の材木等 , 本堂の横材 , 妻飾り・懸魚 , 斗栱・中備・垂木 , 破風 , 本堂の特徴・価値
D. 寺院周辺の技能者	修理の技能者 , 不在の技能者 , 堂宮大工の所在 , 堂宮大工の減少 , 屋根職人 , 左官職人 , 伝統技能者の不在の理由 , 過去に実施した修理
E. 現本堂の維持修繕	修理予定 , 必要な修理 , 修理ができない理由 , 本堂を継承していく為の準備 , 文化財指定・登録の意向 , 指定・登録の理由

3 研究結果

ここでは例として、寺院周辺の技能者の実態に関する結果を示す。寺院本堂を竣工時の状態で維持するために、伝統技能者を必要とする寺院に対して、近隣の技能者が不在である割合は、茅葺工の不在率が最も高く約 7 割に達した (表 3)。次に、堂宮大工と彩色工や漆喰工、左官工、本瓦工が続き、技能者の不在が深刻な地域が考えられる。なお、畳工や木製建具工は不在率が比較的低い。茅葺工が必要な寺院は 23 件あるが、現在も茅葺の寺院は 5 件であり、その他はすでに別の屋根葺材へ変更していた。

表 3　近隣に不在の技能者

	堂宮大工	本瓦工	桟瓦工	茅葺工	左官工	木製建具工	漆喰工	彩色工	畳製作工	その他	寺院数
必要な職工	364	174	98	23	305	232	160	64	267	14	464
不在の職工	181	46	17	16	69	37	58	31	33	2	311
不在率 (%)	49.7	26.4	17.3	69.6	22.6	15.9	36.3	48.4	12.4	14.3	67

伝統技能者を必要とする寺院における地方別の不在の有無は、北海道では全ての寺院おいて、技能者の不在の問題を抱えていた (図 1)。東北や九州において不在が多く、不在が少ないのは東京や近畿であった。

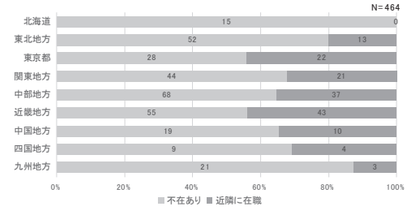


図 1　伝統技能者を必要とする寺院の技能者不在と地方

地方別に不在の技能者をみると、堂宮大工が中国地方以外では 5 割を超えた (表 4)。また、東京都では左官工の不在が多く、四国地方では彩色工の不在が多い。今後は今回の調査により得られた結果をふまえ、寺院本堂の長期利用へのより深い分析を行う。

表 4　地方別の近隣に不在の技能者

	堂宮大工	本瓦工	桟瓦工	茅葺工	左官工	木製建具工	漆喰工	彩色工	畳製作工	その他	寺院数
北海道	10 (67%)	1 (7%)	2 (13%)	1 (7%)	2 (13%)	3 (20%)	2 (13%)	1 (7%)	4 (27%)	0 (0%)	15 (100%)
東北地方	32 (62%)	3 (6%)	2 (4%)	7 (13%)	8 (15%)	3 (6%)	8 (15%)	2 (4%)	1 (2%)	0 (0%)	52 (100%)
東京都	18 (64%)	6 (21%)	5 (18%)	0 (0%)	15 (54%)	6 (21%)	4 (14%)	3 (11%)	5 (18%)	0 (0%)	28 (100%)
関東地方	25 (57%)	6 (14%)	1 (2%)	0 (0%)	8 (18%)	4 (9%)	10 (23%)	4 (9%)	8 (18%)	0 (0%)	44 (100%)
中部地方	36 (53%)	13 (19%)	4 (6%)	2 (3%)	15 (22%)	10 (15%)	14 (21%)	6 (9%)	4 (6%)	1 (1%)	68 (100%)
近畿地方	35 (64%)	11 (20%)	1 (2%)	4 (7%)	10 (18%)	8 (15%)	11 (20%)	8 (15%)	7 (13%)	1 (2%)	55 (100%)
中国地方	6 (32%)	0 (0%)	0 (0%)	1 (5%)	4 (21%)	1 (5%)	1 (5%)	2 (11%)	1 (5%)	0 (0%)	19 (100%)
四国地方	6 (67%)	1 (11%)	0 (0%)	0 (0%)	1 (11%)	0 (0%)	2 (22%)	2 (22%)	1 (11%)	0 (0%)	9 (100%)
九州地方	13 (62%)	5 (24%)	2 (10%)	1 (5%)	6 (29%)	2 (10%)	6 (29%)	3 (14%)	2 (10%)	0 (0%)	21 (100%)

東京都市大学
建築学科同窓会誌
Bulletin

如学会の今年度前半の主な行事は下記の通りです。多くの会員の皆様のご参加をお待ちしております。

西澤信二氏 講演会「エンタテイメントシティ渋谷の実現に向けて」

2019.06.01 [土] 16:45-17:45

●渋谷エクセルホテル東急

「エンタテイメントシティ
渋谷の実現に向けて」（仮題）

渋谷が大変貌を遂げている。複雑な8路線の鉄道を整理し、高層ビル群が聳え立ち、渋谷川が復活する。その壮大な計画の中心にいる西澤信二氏（S59卒・東急電鉄・渋谷戦略事業部総括部長）が渋谷の再開発を語ります。

渋谷駅周辺の将来図（2027年）

定期総会・講演会・懇親会

2019.06.01 [土] 15:30-20:00

15:30 16:30	定期総会	●渋谷エクセルホテル東急
	休憩	
16:45 17:45	講演会	講演者：西澤信二氏 （S59卒・東急電鉄）
	休憩	
18:00 20:00	懇親会	●渋谷エクセルホテル東急

※詳細はメールマガジンで追ってお知らせします。
　ＨＰもご覧下さい。

「建築100人展2019」

2019.11.02 [土] **-11.03** [日]

大学展　10:00-18:00　入場無料

会場：建築学科1階グランドギャラリー

■ＯＢ、ＯＧによる「100人展」及び、在校生の3研究会による研究発表、及び2年生課題発表などがあります。

2019.12.07 [土] **-12.15** [日]

浅草展　11:00-19:00　入場無料

会場：隅田公園リバーサイドギャラリー

12.07[土] 17:00-19:00 オープニングパーティクルーズ

赤レンガ卒業設計展2019

2019.3.22[金]**-25**[月] 10:00-19:00

●会場：横浜レンガ倉庫1号館1階スポット・2階スペース・3階ホール
●講評審査会
・日時：2019.3.25[月] 13：15-
・会場：横浜赤レンガ倉庫 3階ホール
・審査委員長：内藤廣
・審査員：アストリッド・クライン、五十嵐淳、小堀哲夫、藤村龍至
●参加大学
東京都市大学、東京理科大学、前橋工科大学、日本大学、東京電機大学、共立女子大学、日本女子大学、法政大学、神奈川大学、東京工業大学、昭和女子大学、首都大学東京、横浜国立大学、宇都宮大学
●問い合わせ
赤レンガ卒業設計展2019　代表　福井将理
s.f.akarengadiploma@gmail.com

進路ガイダンス2019

場所・東京都市大学　世田谷キャンパス

2019.06.19 [水] 13:00-19:00（予定）

●第1部　事業別仕事紹介　13:00-17:00（予定）
会場：新6号館「61B教室」（予定）

●第2部　懇親会　17:00-19:00（予定）参加無料
会場：1号館4階「ラウンジ・オーク」（予定）

2019.10.23 [水] 13:00-19:00（予定）

●第3部　企業別仕事紹介　13:00-17:00（予定）
会場：建築学科棟1階「グランドギャラリー」

●第4部　懇親会　17:00-19:00（予定）参加無料
会場：1号館4階「ラウンジ・オーク」（予定）

会費・支援費納入のお願い

是非とも旧友、先輩、後輩にご連絡いただき、会費納入の促進にご協力いただけるようにお願いします。そして、積極的に如学会活動にご参加下さい。仕事にキャリアにも多くのメリットがあります。会費・支援費のご納入いただいた方々は、如学会NEWSに添付の納入者リストにご芳名を掲載させていただいております。

会費：3,000円(1年分)／10,000円(4年分・割引料金)
支援費：5,000円／一口

納入頂ける方は必ず「内訳」をご記入の上、振込頂くようお願い致します。如学会NEWSに同封の専用の振込用紙を用いない場合は下記口座をご利用ください。

郵便局　払込取扱票 No. 00160-0-174206　如学会

郵便振込以外の方法を紹介（詳しくは如学会ＨＰ）

如学会ホームページのご案内

jogakkai.jp

Facebook
ページでも

編集後記

「ドバイ・アブダビ都市建築ツアー」いつもの如学会弾丸ツアーです。四国、台湾に続き西山氏に執筆をお願いしました。文章量が多く、最初1万字を悠に超えていました。当初予定の2ページが4ページに膨らみました。読者には供に旅した気にさせてくれる臨場感あふれる文章をお楽しみください。

また、例年どおり6月第1週の土曜日に渋谷エクセルホテル東急で如学会2019年度の定期総会を開催します。講演者は、渋谷の再開発の中心人物の西澤信二氏です。変貌する渋谷再開発について語って頂きます。是非、同窓会を兼ねて友人を誘ってお出掛け下さい。お待ち申し上げております。

長く松田平田設計で代表取締役を務められました中園正樹氏が逝去されました。我々世代には多大な影響を与えた先輩でした。青山葬儀所での「お別れの会」は、中園さんらしく、行動力と人柄の滲みでたセレモニーと展示でした。ご冥福を祈り申し上げます。

丹羽譲治

各事業の申し込み
問い合わせ先

総務局長
小林秀憲

E-mail
jogakkai.info@jogakkai.jp

発行人
山岡　嘉彌

編集長
丹羽　譲治

情報委員長
露木　博視

編集顧問
松成　和夫

編集委員
酒井　孝博
勝又　英明
山口　裕照
鈴木　浩

エディトリアルデザイン
山岡　嘉彌

制作
鈴木　浩

制作・印刷
株式会社　はやと企画

発行
東京都市大学建築学科如学会
東京都世田谷区玉堤1-28-1
〒158-8557

発行日
2019年3月19日